

810.7-To12ウ



1200500753269

810.7

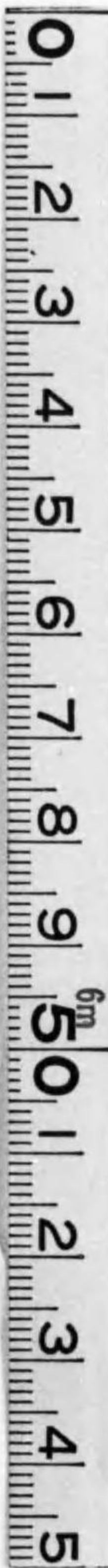
112

⑦

日本語教科用

ハナシコトバ學習指導書

中



始





810.7  
T012



日本語教科用

トバ學習指導書

中





908  
51E

目次

第一課	.....	一
第二課	.....	五
第三課	.....	二六
第四課	.....	三七
第五課	.....	四八
第六課	.....	五八
第七課	.....	七三
第八課	.....	八三
第九課	.....	九一
第十課	.....	九六
第十一課	.....	一〇〇
教科用語	ハナシコトハ編纂趣意.....	一
教科用語	ハナシコトハ學習指導書 中 凡例.....	六

目次

一



第十二課	頁
第十三課	頁十三
第十四課	頁二十
第十五課	頁二十五
第十六課	頁二十九
第十七課	頁三十四
第十八課	頁三十七
第十九課	頁三十九
第二十課	頁四十一
第二十一課	頁四十七
第二十二課	頁五十二
第二十三課	頁五十八
第二十四課	頁六十五
第二十五課	頁七十
第二十六課	頁七十七
第二十七課	頁八十三
第二十八課	頁八十八
	頁九十三
	頁九十八
	頁九十九

第二十九課	頁二百五
第三十課	頁二百一十一
第三十一課	頁二百十五
第三十二課	頁二百二十
第三十三課	頁二百二十七
第三十四課	頁二百三十五
第三十五課	頁二百三十九
第三十六課	頁二百五十二
第三十七課	頁二百五十七
第三十八課	頁二百六十一
第三十九課	頁二百六十五
第四十課	頁二百六十九
第四十一課	頁二百七十四
第四十二課	頁二百七十八
第四十三課	頁二百八十三
第四十四課	頁二百八十八
第四十五課	頁二百九十三
	頁二百九十八
	頁二百九十九



第四十六課……………三六三

第四十七課……………三六七

第四十八課……………三九三

第四十九課……………三九六

第五十課……………三九九

附 録

日本語 教科用 ハナシコトバ編纂要旨 華語譯……………一

日本語 教科用 ハナシコトバ學習指導書 中 凡例 華語譯……………五

日本語 教科用 ハナシコトバ 中 華語譯……………十一

目 次 終

日本語 教科用 **ハナシコトバ編纂趣意**

一 目 的

ハナシコトバは、極めて簡易で且必須な日本語の話言葉を、主として青少年男女に學習せしめる目的で編纂したものである。

日本語の學習には、口から耳へのいはゆる話言葉から入る方法と、目に訴へるいはゆる書き言葉から入る方法とがある。しかし、書き言葉を學習せしめるにしても、眞に自己のものたらしめるためには、話言葉の修得がその前提となるべきである。しかも、本書は卑近な日常語の學習が目的であるから、その意味からも、話言葉を學習せしめることとしたのである。

一 材 料

本書は、基本的な語彙と構文とによつて、日常生活を表はすこととし



た。

語彙は約六百選んだが、學習指導書に於て相當數補つた。元來、語彙は、言語生活を圓滑に遂行する上には、多ければ多いほど好都合であるが、初歩の段階に於ては、學習上の制約を考慮して、この中で最も重要なものを選び、これが運用を十分ならしめることが必要である。本書に於ては、かやうな觀點から、學習者にとつて重要であると考へられるものを主として選んだのである。しかし、語彙の運用を十分ならしめるには、構文形式を與へなければならぬ。構文形式は、或一定の思想感情を表現する語の結合形式である。随つて、日本語の學習には、語彙の修得と構文形式の修得とが必然的に要求されるのであるが、構文形式の種類は雜多であり、量も少くはないから、その基本的なものを確實に修得することは、日本語に早く習熟する所以である。蓋し、構文形式に習熟してをれば、語彙は必要に應じて適宜これを補ふことができるか

らである。たゞ本書には、話言葉の實際に即さないものもないではないが、これは易より難に入る言語訓練の過程上必要な手段として收めたのであつて、それらは學習の進むにつれて次第に整理する方針を採り、以て日本語の醇正を期した。

### 一 組織

本書は上・中・下の三冊に分つて編纂した。その「上」に於ては、主として主語と述語とから成る程度の構文形式及びこれに補語乃至客語の加つた程度のもを聴取・理解せしめ、兼ねてこれが言表をなし得る素地を養ふことを期したのである。「中」に於ては、更に進んで、簡単な修飾語の加つた程度のも及び「上」に於て授けなかつた構文形式、簡単な複文等を授け、「下」に於ては、「上」及び「中」で授けた構文形式を應用したものを主とし、その發展としてやゝ複雑なものを授けようとしたのである。

### 一 發音符號



本書は、話言葉を學習せしめるための教科書であるから、發音符號によつて表記することとした。發音符號としては、(一)注音符號を用ひること、(二)萬國音聲符號を用ひること、(三)ローマ字を用ひること、(四)漢字を用ひること、(五)かなを用ひること等が考へられるが、本書の對象とする如き學習者に與へるものとしては、かたかなを發音符號として整理して用ひることを最も適當と認められた。さうして、かたかなを發音符號として用ひるに當つては、(一)が行濁音(二)無聲化母音等をも表記する方法を講ずべきであらうが、本書に於ては、學習上の便宜を考へて簡略に從ひ、これらの表記を省略した。

次に、話言葉の學習を容易ならしめるために、本書に於ては分ち書きの方法を採り、助動詞・助詞を除く各品詞はそれ／＼他の語から離して書き、助動詞・助詞は上の語に續けて書くこととした。

なほ、かたかなを發音符號として用ひれば、學習者はこれを正字法と

してのかたかなの用法と混同する虞がある。この難を避けるため、本書に於ては、印刷の字體に留意し、その區別を明らかならしめた。指導者は、適當な方法により、その區別を明確に學習者に認識せしめることに努める必要がある。

#### 一 教授時數

本書は、約百五十時間を以て教授することを大體の目標としてゐる。しかし、實際の教授に當つては、土地の事情、學習目的、學習力等の如何によつて、この時數に増減を施してもさしつかへない。



日本語  
教科用

## ハナシコトバ學習指導書 中 凡例

一 ハナシコトバは、始めて日本語を學ぶ人々に、日本語を話し聴く手引をしようとして編纂した教科書である。しかも、短時間に、日常生活に必須な挨拶言葉や、極めて簡易な話言葉を修得させようとする教科書である。随つて、指導の方法が適切でなくては、十分な効果を擧げることができない。本指導書が、編纂趣意とともに學習指導の方法に關する要點を掲げて、實際指導の参考に供しようとする所以である。

われわれの日常の談話は、音聲を主とし、これに指示、身振、表情、動作等を意識的または無意識的に交へて、思想、感情を傳達しあふのであつて、決して音聲のみから成立つてゐるものではない。随つて、言語學習の初步に於ては、この真相に觸れた教材であり、指導の方法でなくては十分な効果を收めることはできない。本書は特にこの點に留意して編

纂し、さういふ立場からの學習指導を立案した。

一 上述の立場から、學習指導の方法は、先づ身邊の事物によつて直接に會得させ、次には繪畫及び發音符號を用ひて備忘に供し、會得と練習を十分ならしめようとした。

一 本書に示した指導事項は、たゞその骨組に過ぎない。それ／＼の時間に於ける指導内容として、それに血肉を與へ、それを生きた教材たらしめるために、これを如何に發展させ組織化すればよいかは、一に指導者の工夫に俟たなくてはならない。かくて指導内容が決定すれば、次にそれをどういふ順序に學習させるかといふ指導過程が立てられなくてはならない。

指導過程としては、先づその時間に於て學習させようとする教材と關係の深い既習教材の復習を行ひ、それと關聯せしめて新教材を提示し、更にこれを既習教材に結合して應用を試みさせ、學習を深く確かに



させることが肝要である。

かくて、指導内容を定め、これが指導過程を豫定した上は、更に指導方法を想定して豫定案を立てておく必要がある。この豫定案があつて、始めて學習者のその教材に對する學習活動が指導者に理解せられるのであつて、これなくしては、如何に眞剣な努力を試みても、指導はおろか、學習活動の眞相を握ることさへ不可能である。

指導方法は、指導者または他の學習者の話言葉を聴取らせる聽方、學習者自身に話させる話方及び指導者と學習者とで、または學習者相互で行ふ問答を基本單位とし、これを如何に組合はせるかによつて決定せられる。

(イ) 聽方 外國語修得の出發點は、その外國語の聽方にある。なるべく多く聴かせ、正しく精しく聴取らせることが要諦である。

(ロ) 話方 言葉は、受身になつて聴取するだけでは修得することはでき

ない。自ら進んで話さうといふ能動的な立場に立つて、始めて正しく精しく聴くことができるのである。元來、話すことと聴くことは相即した働きであつて、話すことによつて聴く耳があき、聴くことによつて話す口がひらくといふのがその眞相であるから、兩者は相俟つてこれを行ふ機會を與へなくてはならない。

(ハ) 問答 日常の言語生活に於ける會話は、主として聴くことと話すこととから成つてゐるものであるが、問答はこれらとやゝ趣を異にし、特殊な性質を帯びてゐる。先づその特殊性として數へられる第一は、會話が生活的・内容的であるのに比して、これは反省的・形式的であるといふことである。第二は、會話が全人的であるのに比して、これは専ら知的であるといふことである。随つて、その方向は、問ふ者と答へる者とが對立的な立場をとり、形式的照應を以て發展するのが一般である。かくて問答は、學習指導法として、聽方・話方によつて得



た言葉につき、その發音・意義の把握を確實にさせ、その應用を自在ならしめる上に大なる効果を齎すものであつて、これが適切を得ると否とは、學習指導の死活を決する鍵であるといつても過言ではない。なほ指導法としての問答には、日常の會話に比して不自然なところも出て來がちであるが、それは主として内容的な不自然であつて、形式的な不自然ではない。この内容的不自然は、知識の程度と言語運用力とが一致してゐない學習者の言語訓練には、或程度まで不可避である。随つて、できるだけ日常會話の自然さを失はないといふ注意の下に、言語訓練の本旨を逸しないことが肝要である。

一 日本語を學習させるに當つて特に肝要なのは、指導態度である。われわれが言語を修得するのは一に環境の力によるもので、父兄母姉を始め、周囲の人々の温かい顧慮の下に、知らず識らずの間にその言語社會の一員となるのであるが、外國語を修得するのはこれと異なり、環境

によるかはりに學習的努力により、指導者の指導の下に、練習に練習を重ねてやうやくその用を辨ずるに至るのである。この點に對しては、あたかも母國語修得に於ける父兄母姉の如きいたはりの態度を持し、發音・抑揚の不備を始め、語彙選擇の不適切、語法の不正確等に至るまで、意味の通ずる限りこれを認め、かたことめいた話しぶりによつてその意圖を知り、日本語に對する親しきをもたせるとともに、これが使用の興味と勇氣とを喚起することに努め、日本語で話さうとする意欲の涵養と態度の育成に努めなくてはならない。指導者が發音・語法の正確または用語・構文の的確を期するあまり、最初から批正を嚴密に行ふ時は、學習者は興味と勇氣を失ひ、日本語學習の意欲さへ失ふに至るであらう。入門に當つては、細瑕を厭はず、その大成を將來に期することが指導上肝要である。

かくの如くして、日本語學習の興味を喚起し、大膽自由に會話しよう



とする傾向を養ひ、やがて學習の進むに従ひ、用語・構文・發音・語法の批正に着手し、次第に會話の上達を期せなくてはならない。この兩様の態度のいづれを缺いても、またその適用に機宜を失つても、有效な日本語の學習指導は期し難いであらう。

一 本書は、學習指導の方法を、時間を單位として計畫せず、教材を單位として立案した。これは、學習の時・所に適切な指導たらしめるために、繁簡伸縮を圖る便に供しようとしたためにほかならない。

一 本書の組織は、敍上の趣旨に基づき、各課に關して教材・指導・備考の三項を設け、指導に於ては學習指導の要領と方法を示し、備考に於ては發音上及び指導上の注意を記すこととした。

一 本書に於ても、上卷に於けると同様に、かたかなを發音符號として用ひてゐるが、これは事物や繪畫と同様、一種の教便物で、特に語彙・構文の備忘として練習に供へるためである。これが實際の指導に當つては、

できるだけ眼前の事實から出發することに努め、發音符號としてののかたかなは備忘的に使用するに止むべきである。

一 本書に掲げてある問答には、教科書に於けると同じく、日常會話に於ける表現形式と多少ちがつてゐるものもあるけれども、これは全く言語訓練の必要から設けた段階である。

一 本書の各課に記した指導案は、各教材による話言葉の學習には、少くもこれだけは必要であると思はれる問答を計畫的に掲げたものである。随つて、實際の指導に當つては、その學習者の力に應じ、その場所に應じ、その時に應じて問答を加除して適切を期することが肝要である。

一 本書に掲げた補充語は、教材の提示並びに練習上必要なものに限つた。随つて、學級の大きさ、學習者の知能の程度その他の理由により、學習者の學習能力に餘裕のある場合には、本書に示したものの以外に適當な語彙を選んで補充し、語彙數の増加を圖ることが肝要である。この際には、なるべく教材並びに環境に即して語彙を選ぶべきである。



附 アクセント

本指導書の教材欄に、各教材のアクセントを附けた。その要領は次のほりである。

- (一) アクセントとは、聲の高低調子が各単語に慣用上固定したものをいふ。
- (二) ホンデス アナタ の如く右側に縦線を引いたものは、その部分の聲の調子が高くなることを示す。
- (三) 縦線を附けない語は、語の終まで大體同じ調子で發音することを示す。
- (四) ソーデワアリマセン の如く括弧を附けたのは、特にその語の意味を強めていふ時のほかは、聲の調子があまり高くないことを示す。
- (五) 同一の単語について二様のアクセントの慣用のあるものは、その一を表記し、他を参考として備考欄に掲げた。

第一課 (第一頁)

一 教材

ハナガ サイテイマス。

イクツ サイテイマスカ。

ヤッツ サイテイマス。

構文

語彙 ハナ サイ(テ) ヤッツ

〔教具〕 咲いてゐる花五つ、蕾のもの五つ。小石・苹果各五箇。掛圖等。

二 指導

(一) 要領

1 本課は、「さいてゐます」といふ構文によ

つて、「むつつから」と「ままでの數へ方を練習させるのが主眼である。



2 同じ動詞の連用形にてゐます。の附いた形でも、本課の「さいてゐます」の如く、動作が既に完了して、その結果だけが存在してゐる上に、その動作の再現が困難なものは、既習の「あるいてゐます」「はしつてゐます」または「こしかけてゐます」「たつてゐます」等に比して、學習上困難である。よつて、類例をできるだけ多く練習させることが肝要である。

3 本課は數の數へ方に關する教材であるが、本課から第六課までは、いづれも花紙本時刻、月日人等について數の數へ方と助數詞とを授ける一聯の教材であるから、相互の連絡に注意することが必要である。

(二) 問 答

1 復習

○これは、なんですか。(教卓上の小石を指しながら)  
 △こいしです。(二人々に)  
 ○どこに、ありますか。(教卓上の小石を指しながら)  
 △つくゑのうへに、あります。(一人一人に)  
 ○いくつ、ありますか。(小石五箇を示しながら)  
 △いつ、あります。(二人々に)  
 以上反復數回。  
 ○こゝに、こいしが、ひとつ、あります。こゝに、こいしが、ふたつ、あります。みんな、いくつ、ありますか。(小石一箇と二箇とをそれ〴〵示しながら)  
 △みつつ、あります。(二人々に)

○これは、なんですか。(教卓上の苹果または掛圖の繪を指しながら)  
 △りんごです。(二人々に)

○どこに、ありますか。(教卓上の苹果を指しながら)  
 △つくゑのうへに、あります。(一人一人に)

○いくつ、ありますか。(苹果四箇を指しながら)  
 △よつつ、あります。(二人々に)

○おほいきい、りんごが、ふたつ、あります。  
 △ちひさい、りんごが、みつつ、あります。

みんな、いくつ、ありますか。(大きい苹果二箇と小さい苹果三箇を示しながら)

△いつ、あります。(二人々に)

○その他。

○□さん、おたちなさい。(學習者の一人に起立させる。)

△はい。

○□さんは、たつてゐますか、こしかけてゐますか。(立つてゐる□さんを指しながら)

△たつてゐます。(二人々に)

○□さん、おかけなさい。(立つてゐる□さんに對して)

△はい。

○□さんは、こしかけてゐますか。(腰掛けてゐる□さんを指して)

△こしかけてゐます。(二人々に)

○あなたは、なにを、してゐますか。(繪を見てゐる學習者に對して)



△ゑを みてゐます。(二人々に)

△その他

2 提示

○これは はなです。(花を示しながら)

○これは はなではありません。(花以外

のものを示しながら)

○これは はなですか。(花を示しながら

自問)

はい、さうです。(自答)

○これも はなですか。(花以外のものを

示しながら自問)

いいえ、さうではありません。(自答)

○これは はなですか。(花を示しながら)

△はい、さうです。(二人々に)

○これも はなですか。(他の花を示しな

がら)

△はい、さうです。(二人々に)

○これも はなですか。(花でないものを

示しながら)

△いえ、さうではありません。(二人一

人に)

○これは なんですか。(花を示しながら)

△それは はなです。(二人々に)

○これは あかい はなですか、しろい

はなですか。(赤い花を示しながら)

△(それは) あかい(しろい) はなです。(二

人一人に)

○はなが さいてゐます。(咲いてゐる花

を示しながら)

○はなが さいてゐますか。(咲いてゐる

花を示しながら自問)

はい、さいてゐます。(自答)

○この はなも さいてゐますか。(蕾を

示して自問)

いえ、さいてゐません。(自答)

○はなが さいてゐますか。(咲いてゐる

花を示しながら)

△はい、さいてゐます。(二人々に)

○この はなも さいてゐますか。(咲い

てゐる他の花を示しながら)

△はい、さいてゐます。(二人々に)

○これも さいてゐますか。(蕾を示しな

がら)

△いえ、さいてゐません。(二人々に)

○この はなは さいてゐますか、さい

てゐませんか。(咲いてゐる花を示し

ながら)

△さいてゐます。(二人々に)

○これは なんですか。(小石を示しなが

ら)

△こいしです。(二人々に)

「せんせいがかぞへてみませう。とい

つて、先づ指導者が数へ、学習者には聴

取させる。

○ひとつ ふたつ みっつ よっつ い

つ。(反復数回)

△ひとつ ふたつ みっつ よっつ い

つ。(指導者も和して一齊に、次に一人

一人に)

小石を八箇に増して、いくつあるか、

かぞへてみませう。といつて、

○ひとつ ふたつ みっつ よっつ い

つ。(反復

数回)

△ひとつ ふたつ みっつ よっつ い

つ。(指導

者も和して一齊に、次に一人々に)

小石を十箇に増して、これではいく



つあるか、かぞへてみませう。」といつて、

○ひとつ ふたつ みっつ よっつ いっつ  
むっつ なっつ やっつ こっつ  
のつ とを。(反復數回)

△ひとつ ふたつ みっつ よっつ いっつ  
むっつ なっつ やっつ こっつ  
のつ とを。(指導者も和して一齊に、次に一人々々に)

○こゝに こいしが あります。ひとつ  
ふたつ みっつ よっつ いっつ むっつ  
つ、むっつ あります。(小石を示し、それを數へながら)

□さん、かぞへてごらん下さい。

△ひとつ ふたつ みっつ よっつ いっつ  
むっつ。(二人々々に)

○こゝに こいしが あります。ひとつ

ふたつ みっつ よっつ いっつ むっつ  
なっつ、なっつ あります。(小石を示し、それを數へながら)

○こゝに こいしが いくつ あります

△なっつ あります。(二人々々に)

○こゝに こいしが あります。ひとつ  
ふたつ みっつ よっつ いっつ むっつ  
なっつ やっつ、やっつ あります。  
(小石を示し、それを數へながら)

○こゝに こいしが いくつ あります

△やっつ あります。(二人々々に)

同様にして、「こゝのつ」とを提示する。

○こゝに こいしが いっつ あります。  
こゝに こいしが みっつ あります。

みんなで いくつ ありますか。(小石

五箇と三箇をそれ／＼示しながら)

△やっつ あります。(二人々々に)

○こゝに こいしが いっつ あります。

こゝに こいしが いっつ あります。

みんなで いくつ ありますか。(小石

五箇づつを別々に示しながら)

△とを あります。(一人々々に)

○こゝに あかい はなが いっつ さ

いてゐます。

こゝに しろい はなが ひとつ さ

いてゐます。

みんなで いくつ さいてゐますか。

(赤い花五輪と白い花一輪とを示しながら)

ら)

△むっつ さいてゐます。(一人々々に)

○こゝに あかい はなが よっつ さ

いてゐます。

こゝに しろい はなが みっつ さ

いてゐます。

みんなで いくつ さいてゐますか。

(赤い花四輪と白い花三輪とを示しながら)

ら)

△なっつ さいてゐます。(一人々々に)

○こゝに あかい はなが よっつ さ

いてゐます。

こゝに しろい はなが よっつ さ

いてゐます。

みんなで いくつ さいてゐますか。

(赤い花四輪と白い花四輪とを示しながら)

ら)

△やっつ さいてゐます。(一人々々に)

○こゝに あかい はなが むっつ さ

いてゐます。



こゝに しろい はなが ふたつ さ  
いてゐます。

みんなで いくつ さいてゐますか。

(赤い花六輪と白い花二輪とを示しながら)

△やっつ さいてゐます。(二人々々に)

この時、各學習者に花の略畫を畫かせ  
るとよい。

○こゝに あかい はなが いつゝ さ  
いてゐます。

こゝに しろい はなが よっつ さ  
いてゐます。

みんなで いくつ さいてゐますか。

(赤い花五輪と白い花四輪とを示しながら)

△こゝのつ さいてゐます。(二人々々に)

○こゝに あかい はなが いつゝ さ

いてゐます。

こゝに しろい はなが いつゝ さ  
いてゐます。

みんなで いくつ さいてゐますか。

(赤い花五輪と白い花五輪とを示しながら)

△とを さいてゐます。(二人々々に)

○はなが さいてゐます。かぞへてみま  
せう。

ひとつ ふたつ みっつ よっつ い  
つゝ むっつ なゝつ やっつ。

□さん、いくつ さいてゐますか。

(花八輪を數へながら)

△やっつ さいてゐます。(二人々々に)

○黒板に

ハナガ サイテイマス

イクツ サイテイマスカ

ヤッツ サイテイマス

と書き、黒板の符號を指し示しながら、一  
音一音はつきりと、語調に注意して、何遍  
も繰返していふ。

△板書の符號をたどつて、はつきりと、語調  
に注意していはせる。(指導者も和して  
一齊に、また一人々々に)

○本の第一頁を開かせて、繪畫を見せなが  
ら、符號によつて、はつきりと、語調に注意  
して、何遍も繰返していふ。

△符號をたどつて、はつきりと、語調に注意  
していはせる。(指導者も和して一齊に、  
また一人々々に)

3 總括

○はなが さいてゐますか。(咲いてゐる  
花を示しながら)

△はい、さいてゐます。(一齊に、また一人

一人に

○はなが さいてゐますか。(蕾を示しな  
がら)

△いゝえ、さいてゐません。(一齊に、また  
一人々々に)

○この はなは さいてゐますか、さい  
てゐませんか。(咲いてゐる花を示しな  
がら)

△さいてゐます。(一齊に、また一人々々に)

○こゝに はなが いつゝ さいてゐま  
す。(咲いてゐる花五輪を示しながら)

△はなが さいてゐます。(一齊に、また一  
人一人に)

○はなが さいてゐます。



いくつ さいてゐますか。(咲いてゐる  
花八輪を、略畫または掛圖で示しなが  
ら)

△やっつ さいてゐます。(一齊に、また一  
人一人に)

この時、各學習者に花の略畫を畫かせ  
るとよい。

### 三 備 考

(一) ミツツをミツに、ヨツツをヨツに、ムツツ  
をムツに、ヤツツをヤツに、タツテをタテに  
誤り易い。かゝる促音を脱落するものに  
對しては、正しい音をしぼく、聽馴れさせ  
るとともに、促音の息を止めてゐる間を、少  
し長めて發音する練習をさせた後に、自然  
な發音の練習をさせる。

(二) サイテイマスをサイデイマスの如く、テ

を「デ」に誤り易い。かゝる清音を濁音に近  
く誤るものに對しては、正しい音をしぼし  
ば聽馴れさせるとともに、有氣音的に發音  
する練習をさせた後に、自然な練習をさせ  
るのもよい。

(三) ハナはアクセントにより、ハナ(花)ハナ(鼻)  
ハナ(端)となり、サクはサク(咲)サク(裂)となる  
から注意を要する。

(四) ヤツツのアクセントは、ヤツツ サイテ  
イマスのやうに副詞的に用ひられた時は  
平板であるが、單獨の名詞として用ひられ  
るとヤツツとなる。

(五) 本課は第一課であるから、できれば普通  
の課より時間を多くかけたい。

(六) 本課は物の數へ方の教材として、上の卷  
第七第八第二十七第二十八の各課並びに  
中の卷第二課以下第六課までと十分連絡

させるとともに、○○てゐます型としての  
上の卷第十課並びに第三十五課以下第三  
十九課までとも連絡させることが肝要で  
ある。よつてその一端を復習の項で示し  
ておいた。

(七) 花の咲いてゐる略畫を學習者に畫かせ  
る等、できるだけ學習者の勞作を通して修  
得せしめるやうに工夫したい。

(八) 同じ一つ・二つ・三つ……といふ數の數  
へ方でも、物を替へて練習すれば興味を新  
にするものである。興味を覚えさせなが  
ら十分反復練習させることが必要である。

(九) 本課では小石等を用ひたが、他に適當な  
ものがある場合には、それを用ひてもよい  
ことは勿論である。



第二課 (第二頁)

一 教材

カミガ アリマス。

イクマイ アリマスカ。

イチ ニ サン シ ゴ、ゴマイ アリマス。

構文

語彙 イクマイ イチ ニ サン シ ゴ ゴマイ

〔教具〕 硯・墨・紙赤白各五枚・大小各五枚・掛圖等。

二 指導

(一) 要領

1 本課は、既習の構文あります型によつていくまゝ「ごまい」等の紙の數へ方を

修得させるとともに「いちから」ごまでの漢語の數詞を學習させるのが主眼である。

2 本課に於て新語「ごまい」に關聯して「いちまい」「にまい」「さんまい」「よまい」「ろくまい」「しちまい」「はちまい」「くまい」「じふまい」及び「ろくから」「じふまでの漢語の數詞等を補充し、更に「こんど」は「かぞへて」「らんなさい」等の語彙をも補充することとした。

5 枚を單位の名として數へる紙を、本時刻月日人等の數へ方に先立つて提出したのは、紙の呼び方が漢語の數詞の正則の呼び方「いち」「さん」……に大體一致し、單位の名の呼び方と異なることが少いたためである。

3 先づ「いちまい」「にまい」「さんまい」「よまい」「ごまい」……の如く助數詞のついた紙の數へ方を修得させておいてから、「いち」「さん」「し」「ご」……の如き漢語の抽象數を授けるがよい。

6 本課は紙の數へ方に關する教材であるが、第三課から第六課までは、いづれも既習の構文による本時刻月日人等に關する助數詞を伴ふ數へ方に關する一聯の教材であるから、相互の連絡に注意することが必要である。

(二) 問答

1 復習

○この はなは さいてゐますか。(咲いてゐる花を示しながら)



△さいてゐます。(二人々々に)

○こゝにはなが さいてゐます。

ひとつ ふたつ みつつ よつつ い

つつ むつつ なつつ やつつ、やっ

つ さいてゐます。

□さん、はなが いくつ さいてゐ

ますか。(咲いてゐる花を數へながら)

△やつつ さいてゐます。(二人々々に)

○こゝに しろい はなが ふたつ あ

ります。

こゝに あかい はなが やつつ あ

ります。

(白い花二つ 赤い花八つを實物略畫また

は掛圖で示しながら)

みんなで いくつ ありますか。

△とを あります。(二人々々に)

○これは 为什么呢か。(硯を示しながら)

△すゞりです。(二人々々に)

○どこに ありますか。(教卓上の硯を指

しながら)

△つくゑの うへに あります。(二人一

人に)

○すみも ありますか。(墨を指しながら)

△はい、あります。(二人々々に)

○かみも ありますか。(紙を指しながら)

△はい、あります。(二人々々に)

○つくゑの うへに なにが あります

か。(教卓上の硯と墨と紙を指しながら)

△すゞりと すみと かみが あります。

(二人々々に)

△その他。

2 提示

○つくゑの うへに なにが あります

か。(教卓上の紙を指しながら)

△かみが あります。(二人々々に)

○その かみを かぞへてみませう。と

うつて、

○いちまい にまい さんまい よまい

ごまい。(反復數回)

△いちまい にまい さんまい よまい

ごまい。(紙を數へながら、指導者も和し

て一齊に、次に一人々々に)

次に紙を十枚に増して、

△いちまい にまい さんまい よまい

ごまい ろくまい しちまい はちま

い くまい じふまい。(先づ指導者の

みで數へ、次に一齊に、また一人々々

に)

△こゝに かみが あります。

いちまい にまい、にまい あります。

(先づ指導者のみで數へ、次に一齊に、また

一人々々に)

○こゝに かみが あります。

にまい ありますか。(前の紙二枚を示

しながら)

△はい、にまい あります。(二人々々に)

○こゝに かみが あります。いくまい

ありますか。(前の紙二枚を示しながら)

△にまい あります。(二人々々に)

○こんどは いくまい ありますか。(更

に一枚加へながら)

△さんまい あります。(二人々々に)

○こんどは いくまい ありますか。(更

に一枚加へながら)

△よまい あります。(二人々々に)

○こんどは いくまい ありますか。(更

に一枚加へながら)

△ごまい あります。(二人々々に)



○こゝに あかい かみが あります。  
いちまい にまい さんまい よまい  
ごまい ろくまい、ろくまい あります。  
(紙を數へながら)

「さあ、かぞへてごらん下さい。」といつて、

△いちまい にまい さんまい よまい  
ごまい ろくまい。(紙を數へながら、指導者も和して一齊に、次に一人々々に

○こゝに かみが あります。

□さん、いくまい ありますか、かぞへてごらん下さい。(前の紙六枚を示しながら)

△いちまい にまい さんまい よまい  
ごまい ろくまい、ろくまい あります。  
(一人々々に)

○こゝに しろい かみと あかい か

みが あります。  
いちまい にまい さんまい よまい  
ごまい ろくまい しちまい、しちまい あります。(紙を數へながら)  
「さあ、かぞへてごらん下さい。」といつて、

△○いちまい にまい さんまい よまい  
ごまい ろくまい しちまい。(紙を數へながら、指導者も和して一齊に、次に一人々々に)

△○同様にして、「はちまい・くまい・じふまいを提示する。」

○こゝに かみが いちまい あります。  
こゝにも かみが いちまい あります。

みんなで いくまい ありますか。(紙一枚づつを別々に示しながら自問)

にまい あります。(自答)

○こゝに かみが いちまい あります。

こゝにも かみが いちまい あります。

みんなで いくまい ありますか。(前の紙を一枚づつ別々に示しながら)

△にまい あります。(一人々々に)

○こゝに おほいきい かみが いちまい

あります。  
こゝに ちひさい かみが いちまい

あります。  
みんなで いくまい ありますか。(大きい紙一枚と小さい紙一枚とを示しながら)

△にまい あります。(一人々々に)

○こゝに おほいきい かみが いちまい あります。

こゝに ちひさい かみが にまい あります。  
みんなで いくまい ありますか。(大きい紙一枚と小さい紙二枚とをそれぞれ示しながら)

△さんまい あります。(一人々々に)

○こゝに しろい かみが いちまい あります。

こゝに あかい かみが さんまい あります。  
みんなで いくまい ありますか。(白い紙一枚と赤い紙三枚とをそれぞれ示しながら)

△よまい あります。(一人々々に)

○こゝに しろい かみが にまい あります。  
こゝに あかい かみが にまい あります。



ります。

みんなで いくまい ありますか。(白  
い紙二枚と赤い紙二枚とを別々に示  
しながら)

△よまい あります。(一人々々に)

○こゝに かみが にまい あります。

こゝに かみが さんまい あります。  
みんなで いくまい ありますか。(紙  
二枚と紙三枚とをそれ〴〵示しながら)

△ごまい あります。(二人々々に)

○こゝに しろい かみが にまい あ  
ります。

こゝに あかい かみが さんまい  
あります。

みんなで いくまい ありますか。(白  
い紙二枚と赤い紙三枚とをそれ〴〵

示しながら)

△ごまい あります。(一人々々に)  
同様にして、六枚から十枚までを提示  
する。

次に、紙を十枚、黒板に紙で留めるか、ま  
たは早く数へられるやうな位置にお  
き、

○こゝに かみが あります。 いちまい  
にまい さんまい よまい ごまい  
ろくまい しちまい はちまい くま  
い じふまい、 じふまい あります。

(ゆつくり数へる。)

次に、教鞭で一々指しながら、やゝ早く、  
○いち に さん し ご ろく しち  
はち く じふ、 じふまい あります。

但し、しの際には首を左右に振り、よで  
はありません。といつて生徒の注意を

喚起する。

教師は数回獨りで数へ、學習者がやゝ

正確に理解した頃合を見て、

「さあ、いっしよに、かぞへてごらん  
なさい。」といつて、學習者とともに数へ、  
「もう、いちど。」といつて数回反復する。

○こゝに かみが あります。 いち に

さん し ご ろく しち はち、は

ちまい あります。(紙を数へながら)

□さん、いくまい ありますか、か  
ぞへてごらんなさい。

△いち に さん し ご ろく しち

はち、はちまい あります。(一人々々  
に)

△○その他。

○黒板に

カミガ アリマス

イクマイ アリマスカ

イチ ニ サン シ ゴ ゴマイ ア

リマス

と書き、板書の符號を指し示しながら、は  
つきりと、語調に注意して、何遍も繰返し  
ていふ。

△板書の符號をたどつて、はつきりと、語調  
に注意していはせる。(一人々々に)

○本の第二頁を開かせて、繪畫を見せなが  
ら、符號によつて、はつきりと、語調に注意  
して、何遍も繰返していふ。

△符號をたどつて、はつきりと、語調に注意  
していはせる。(指導者も和して一齊に、  
また一人々々に)

3 總括

○つくゑの うへに なにが あります  
か。(教卓上の紙を指しながら)



△かみが あります。(二人々に)

○□さん、いくまい ありますか、かぞへてごらん下さい。(紙を三枚数へながら)

△いちに さん、さんまい あります。

(二人々に)

○こゝに しろい かみが あります。

□さん、いくまい ありますか、かぞへてごらん下さい。(白い紙を五枚示しながら)

△いちに さん しご、ごまい あ

ります。(二人々に)

○こゝに しろい かみが にまい あ

ります。

こゝに あかい かみが さんまい

あります。 みんなで いくまい ありますか。(白

い紙二枚と赤い紙三枚を示しながら)

△ごまい あります。(一人々に)

○こゝに しろい かみと あかい か

みが あります。

□さん、いくまい ありますか、かぞへてごらん下さい。(紙を八枚示しながら)

△いちに さん しごろく しち

はち、はちまい あります。(一人々に)

に)

○こゝに しろい かみと あかい か

みが あります。

□さん、いくまい ありますか、かぞへてごらん下さい。(紙を十枚数へながら)

△いちに さん しごろく しち

はちく じふ、じふまい あります。

(二人々に)

△○その他。

### 三 備 考

(一) ゴをコに、ゴマイをコマイに誤り易い。

かゝる濁音を清音に誤るものに對しては、正しい音をしぼく聽馴れさせるとともに、有聲化を十分ならしめる方便として、先づ「こゑ」を出してから濁音を發音する練習をさせた後に、自然な發音の練習をさせるのもよい。

(二) オーキイをオキイ、ジューマイをジュマイの如く、長音を短音に誤るものに對しては、正しい音をしぼく聽馴れさせるとともに、長音をやゝ長すぎるくらゐに延ばして練習させた後に、自然な發音の練習をさせるのもよい。



(三) サン・サンマイ □サン等の「ン」が寛音に

ならぬやうに注意することが肝要である。

(四) カミはアクセントによりカミ(紙髪)カミ

(上)カミカミ(神)等の別が生ずる。

(五) イチ = サン シ ゴは、連続的に唱

へる時には、イチ = ー サン シー ゴ

の如く長くなるのが普通である。

(六) 本課は補充語が多く、内容が豊富である

から、普通の課より時間を多くかけること

が必要である。

(七) 本課及び第三課は、あります型による紙または本の數へ方に關する教材として、中の卷第一課から第六課まで及び動作の存在を表はすあります型としての上の卷第七第九第二十四第二十五第二十六第二十七第二十八第三十二の各課と、それと連絡を保つことが肝要である。



- (八) 本課に於ては、一枚から十枚までと、「いちからじふまで」を提出したが、學習者の程度によつては、これを一枚から五枚までと、「いちから」ごまでに止めてもよい。
- (九) 東京の談話語では、「なんまい」ともいふが、本書では、「いくまい」を採用した。「なんまい」といつてもよいことは勿論である。
- (十) 東京の談話語では、四枚は、「しまい」といふよりは、「よまい」と呼ぶことが多いので、本書では、「よまい」を採用した。なほ、「よまい」を「よんまい」「しちまい」を「ななまい」「くまい」を「きゅうまい」といふのは、「よまい」「しちまい」「くまい」等が、他の語と誤られ易いために、特に計算を明確にするために用ひられるのである。

第三課 (第三頁)

一 教材

ホンガ   ゴサツ   アリマス。  
 アツイ   ホンワ   イクサツ   アリマスカ。  
 ニサツ   アリマス。

構文    アツイ    〇〇ワ    〇〇    アリマスカ。  
 ウスイ

語彙    ゴサツ    アツイ (ワ)    イクサツ    ニサツ

〔教具〕 紙十枚、厚い本五冊、薄い本五冊、掛圖等。

二 指導

(一) 要領

1 本課は、既習の構文あります型によつて、「いくさつ」「にさつ」「ごさつ」等の本の數

へ方を修得させるとともに、區別する意の助詞「は」の用法及び「あつゝ」の語彙を修得させるのが主眼である。

2 本課に於ては、新語に「さつ」「ごさつ」に關



聯して「いっさつ」「さんさつ」「しさつ」「ろくさつ」「しちさつ」「はっさつ」「くさつ」「じっさつ」を、「あつち」に關聯して「うすい」を補充することとした。

3 「ほんが ござつ あります。あついはんは いくさつ ありますか。」に於ける既習の助詞がと、區別の意を表はす助詞はとの相違については、説明よりは提示の項で行つた如き例を十分練習することによつて、自然に體得させるがよい。但し、學習者が年長の場合には、簡単にその區別を説明してもよい。

「がは新しいことを相手に告げるときに用ひ、はは既に承知してゐる中で或ものを取出していふときに用ひるのが普通である。」

4 本課に於ける一冊から十冊までの新

語の提示法は、大體前課の一枚から十枚までの提示法に準據すればよい。

(二) 問 答

1 復習

第一課の花の掛圖を用ひて、

○これは、なんですか。

△はなです。

○この はなは、さいてゐますか、さいてるませんか。(咲いてゐる花を指しながら)

△さいてゐます。(一人々々に)

○□さん、いくつ さいてゐますか、かぞへてごらん下さい。(咲いてゐる花十輪を指しながら)

△ひとつ ふたつ みっつ よっつ い

つゝ むっつ なゝつ やっつ こゝ

のつ とを、とを、さいてゐます。(一人一人に)

○これは、なんですか。(紙を示しながら)

△かみです。(一人々々に)

○□さん、いくまい ありますか、かぞへてごらん下さい。(紙を五枚示しながら)

△いちまい にまい さんまい よまい

ごまい、ごまい あります。(一人々々に)

○こんどは、いくまい ありますか、かぞへてごらん下さい。(十枚にして)

△いちに さんし ごろく しち

はちく じふ、じふまい あります。(一人々々に)

△○その他、

2 提示

○つくゑの うへに、なにが ありますか。(教卓上の本を指しながら)

△ほんが あります。(一人々々に)

「このほんを、かぞへてみませう。といつて、

○いっさつ にさつ さんさつ しさつ

ごさつ。(反復數回)

△いっさつ にさつ さんさつ しさつ

ごさつ。(本を數へながら、指導者も和して一齊に、次に一人々々に)

本を十冊に増して、こんどは、いくさつ

つ ありますか、かぞへてみませう、

といつて、

△いっさつ にさつ さんさつ しさつ

ごさつ ろくさつ しちさつ はっさつ

つ くさつ じっさつ。(先づ指導者のみで數へ、次に指導者も和して一齊に、



また一人々々に

△〇こゝに ほんが あります。いっさつ  
にさつ、にさつ あります。(先づ指導  
者のみで數へ次に一齊に、また一人一  
人に)

〇こゝに ほんが あります。にさつ あ  
りますか。(前の本二冊を示しながら)

△はい、にさつ あります。(二人々々に)

〇こゝに ほんが あります。□さん、  
いくさつ ありますか。(前の本二冊を  
示しながら)

△にさつ あります。(二人々々に)

〇こんどは いくさつ ありますか。(更  
に一冊を加へて)

△さんさつ あります。(二人々々に)

〇こんどは いくさつ ありますか。(更  
に一冊加へて)

△しさつ あります。(一人々々に)

〇こんどは いくさつ ありますか。(更  
に一冊加へて)

△ごさつ あります。(一人々々に)

〇こゝに ほんが あります。いっさつ  
にさつ さんさつ しさつ ごさつ  
ろくさつ。いくさつ ありますか。(本  
六冊を數へながら)

△ろくさつ あります。(一人々々に)

〇こゝに ほんが あります。□さん、  
いくさつ ありますか、かぞへてごら  
んなさい。(前の本六冊を示しながら)

△いっさつ にさつ さんさつ しさつ  
ごさつ ろくさつ、ろくさつ ありま  
す。(一人々々に)

△〇こゝに ほんが あります。いっさつ  
本を七冊にして、

△〇こゝに ほんが あります。いっさつ

〇こゝに ほんが いっさつ あります。

こゝに ほんが にさつ あります。

みんな いっさつ ありますか。(一  
冊と二冊とをそれ〴〵示しながら)

△さんさつ あります。(二人々々に)

〇こゝに ほんが いっさつ あります。

こゝに ほんが さんさつ あります。

みんな いっさつ ありますか。(二  
冊と三冊とをそれ〴〵示しながら)

△しさつ あります。(一人々々に)

〇こゝに ほんが にさつ あります。

こゝにも ほんが にさつ あります。

みんな いっさつ ありますか。(二  
冊づつ別々に示しながら)

△しさつ あります。(一人々々に)

〇こゝに ほんが にさつ あります。

こゝに ほんが さんさつ あります。

にさつ さんさつ しさつ ごさつ

ろくさつ しちさつ、しちさつ あり

ます。(先づ指導者が數へ次に一齊に、ま  
た一人々々に)

〇こゝに ほんが あります。□さん、

いくさつ ありますか、かぞへてごら  
んなさい。(前の本七冊を示しながら)

△いっさつ にさつ さんさつ しさつ  
ごさつ ろくさつ しちさつ、しちさ  
つ あります。(二人々々に)

〇こゝに ほんが いっさつ あります。

こゝにも ほんが いっさつ ありま  
す。みんな いっさつ ありますか。

(二冊づつ別々に示しながら)

△にさつ あります。



みんなで いくさつ ありますか。(二人  
冊と三冊とをそれ〴〵示しながら)  
△ごさつ あります。(二人々に)  
同様にして、ろくさつ「しちさつ」「はっ  
さつ」「くさつ」「じっさつ」を提示する。  
○これは あつい ほんです。(厚い本を  
高く掲げ示しながら)  
これは うすい ほんです。(薄い本を  
高く掲げ示しながら)  
○これは あつい ほんですか。(厚い本  
を掲げ示しながら自問)  
はい、さうです。(自答)  
○これも あつい ほんですか。(薄い本  
を掲げ示しながら自問)  
いいえ、さうではありません。(自答)  
○これは あつい ほんですか。(前の厚  
い本を示しながら)

△はい、さうです。(二人々に)  
○これも あつい ほんですか。(前同様  
厚い本を示しながら)  
△はい、さうです。(一人々に)  
○これは うすい ほんですか。(薄い本  
を示しながら)  
△はい、さうです。(二人々に)  
○これも うすい ほんですか。(前同様  
薄い本を示しながら)  
△はい、え、さうではありません。(一人一  
人に)  
○これは うすい ほんですか、あつい  
ほんですか。(厚い本を示しながら)  
△あつい ほんです。(二人々に)

○これは どんな ほんですか。(厚い本  
を示しながら)  
△あつい ほんです。(二人々に)  
○それでは、これは どんな ほんです  
か。(薄い本を示しながら)  
△うすい ほんです。(二人々に)  
○こゝに ほんが あります。  
これは あつい ほんですか、うすい  
ほんですか。(厚薄いろ〴〵な本の中か  
ら厚い本を取出しながら)  
△あつい ほんです。(一人々に)  
○こゝに ほんが あります。  
これは あつい ほんですか、うすい  
ほんですか。(厚薄いろ〴〵な本の中か  
ら薄い本を取出しながら)  
△うすい ほんです。(一人々に)  
○こゝに ほんが にさつ あります。

あつい ほんが いっさつ、うすい  
ほんが いっさつ あります。(厚い本  
一冊と薄い本一冊を示しながら)  
○こゝに ほんが さんさつ あります。  
あつい ほんが にさつ、うすい ほん  
が いっさつ あります。(厚い本二  
冊と薄い本を一冊示しながら)  
△その他。  
○こゝに ほんが ごさつ あります。  
あつい ほんは いくさつ あります  
か。(厚い本三冊と薄い本二冊を示して  
自問)  
○あつい ほんは さんさつ あります。  
○それでは、うすい ほんは いくさつ  
ありますか。(自問)  
○うすい ほんは にさつ あります。(自答)



といふふう提示し、學習者をして「は」とがの區別の存在に注意せしめる。しかし、その區別の明確な理解は將來に待つ方がよいが、必要があるならば、「は」とがの區別の困難なこと及びその區別は練習によつて體得するのがよいことを説明してもよい。もしまた學習者が年長の場合には、「は」とがの區別を簡単に説明しても差支ない。

○こゝに ほんが にさつ あります。  
あつゝい ほんは いくさつ あります。  
か。(厚い本一冊と薄い本一冊を示しながら)

△いっさつ あります。(一人々々に)  
○こゝに ほんが さんさつ あります。  
あつゝい ほんは いくさつ あります。  
か。(厚い本二冊と薄い本一冊を示しながら)

がら

△にさつ あります。(一人々々に)  
○こゝに ほんが しさつ あります。  
あつゝい ほんは いくさつ あります。  
か。(厚い本三冊と薄い本一冊を示しながら)

△さんさつ あります。(一人々々に)  
○こゝに ほんが ごさつ あります。  
あつゝい ほんは いくさつ あります。  
か。(厚い本四冊と薄い本一冊を示しながら)

△しさつ あります。  
○それでは、うすい ほんは いくさつ ありますか。(前の五冊から厚い本四冊を取去つて)

△いっさつ あります。(一人々々に)  
○こゝに ほんが ごさつ あります。

あつゝい ほんは いくさつ あります。  
か。(厚い本三冊と薄い本二冊を示しながら)

△さんさつ あります。(一人々々に)  
○それでは、うすい ほんは いくさつ ありますか。(前の本五冊から厚い本三冊を取去つて)

△にさつ あります。(一人々々に)  
○こゝに ほんが ごさつ あります。  
あつゝい ほんは いくさつ あります。  
か。(厚い本二冊と薄い本三冊を示しながら)

△にさつ あります。(一人々々に)  
同様にして、「ろくさつ」「しちさつ」「はっさつ」「くさつ」「じっさつ」を提示して「は」の練習を重ねる。

○黒板に

がら

△にさつ あります。(一人々々に)  
○こゝに ほんが しさつ あります。  
あつゝい ほんは いくさつ あります。  
か。(厚い本三冊と薄い本一冊を示しながら)

△さんさつ あります。(一人々々に)  
○こゝに ほんが ごさつ あります。  
あつゝい ほんは いくさつ あります。  
か。(厚い本四冊と薄い本一冊を示しながら)

△しさつ あります。  
○それでは、うすい ほんは いくさつ ありますか。(前の五冊から厚い本四冊を取去つて)

△いっさつ あります。(一人々々に)  
○こゝに ほんが ごさつ あります。

ホンガ ゴサツ アリマス  
アツイ ホンワ イクサツ アリマス  
カ  
ニサツ アリマス

と書き、板書の符號を指し示しながら、はつきりと、語調に注意して、何遍も繰返し

△板書の符號をたどつて、はつきりと、語調に注意していはせる。(指導者も和して一齊に、また一人々々に)

○本の第三頁を開かせて、繪畫を見せながら、符號によつて、はつきりと、語調に注意して、何遍も繰返していふ。

△符號をたどつて、はつきりと、語調に注意していはせる。(指導者も和して一齊に、また一人々々に)

3 總括



- つくゑの うへに なにが あります
- か。(教卓上の本を指しながら)
- △ほんが あります。(二人々に)
- さん、いくさつ ありますか、か
- ぞへてごらんなさい。(教卓上の本を指しながら)
- △いっさつ にさつ さんさつ しさつ
- ごさつ、ごさつ あります。(一人々に)
- あつい ほんも うすい ほんも ありますか。(厚い本と薄い本を示しながら)
- △はい、あつい ほんも うすい ほんも あります。(二人々に)
- あつい ほんは いくさつ あります
- か。(厚い本を二冊示しながら)
- △にさつ あります。(二人々に)

三 備 考

- それでは、うすい ほんは いくさつ ありますか。(薄い本を三冊示しながら)
  - △さんさつ あります。(二人々に)
  - こゝに ほんが しちさつ あります
  - あつい ほんは いくさつ あります
  - か。(厚い本三冊と薄い本四冊を示しながら)
  - △さんさつ あります。(二人々に)
  - それでは、うすい ほんは いくさつ ありますか。(その中から薄い本を四冊示しながら)
  - △しさつ あります。(二人々に)
  - △○その他
- (一) ゴサツがコサツに、イッサツがイサツに、ジッサツがジサツに誤られ易いから、比較

- して練習させるなど、十分注意して教へる必要がある。
- (二) ジッサツはジュッサツといふいひ方もあるが、ジッサツを採つた。
- (三) 東京の談話語では「なんさつ」ともいふが、本書では「いくさつ」を採用した。「なんさつ」といつてもよいことは勿論である。



第四課 (第四頁)

一 教材

イマワ ナンジデスカ。

クジ ニジューゴフンデス。

構文

語彙 ナンジ クジ ニジューゴフン

〔教具〕 本厚い本三冊・紙白紙五枚・時計、時計の文字盤模型、掛圖等。

二 指導

(一) 要領

1 本課は既習の構文○○です。を用ひて「なんじ」くじにじふごふん等の數詞を授け、以て時刻の稱へ方を修得させるのが

主眼である。

2 本課に於ては、新語くじにじふごふんに關聯して、一時から十二時まで(但し九時を除く)と、一分から二十四分までと、「とけい」及び「つぎ」等の語彙を補充するこ

ととした。

3 「○○」○○ふんを提示するには、先づ一時から十二時までの時間を授けて後、一分から順次に授け、更に「○○」○○ふんに進むがよい。

示しながら

△はい、あります。(二人々に)  
○あつい、ほんは、いくさつ、ありますか。(厚い本を三冊示しながら)  
△さんさつ、あります。(二人々に)  
○それでは、うすい、ほんは、いくさつ、ありますか。(薄い本を二冊示しながら)  
△にさつ、あります。(二人々に)  
○これは、なんですか。(赤い紙三枚と白い紙四枚とを示しながら)

(二) 問答

1 復習

○つくゑのうへに、なにが、ありますか。(教卓上の本を指しながら)  
△ほんが、あります。  
○いくさつ、ありますか、かぞへてごらんなさい。(教卓上の本を指しながら)  
△いっさつ、にさつ、さんさつ、しさつ、ごさつ、ごさつ、あります。(一人々に)  
○あつい、ほんも、うすい、ほんも、ありますか。(厚い本三冊と薄い本二冊を

△かみです。  
○いくまい、ありますか、かぞへてごらんなさい。(前の紙を七枚示しながら)  
△いち、に、さん、し、ご、ろく、しち、しちまい、あります。(二人々に)  
○あかい、かみも、しろい、かみも、ありますか。(前の赤い紙と白い紙とを示



しながら

△はい、あります。(二人々に)

○あかい かみは いくまい あります  
か。(前の紙七枚の中の赤い紙三枚を示  
しながら)

△さんまい あります。(一人々に)

○それでは、しろい かみは いくまい  
ありますか。(残りの白い紙四枚を示し  
ながら)

△よまい あります。(一人々に)

△その他

2 提示

○これは とけい<sup>ケイ</sup>です。(時計を指しなが  
ら)

○これは とけい<sup>ケイ</sup>ですか。(時計を指しな  
がら自問)

はい、さう<sup>ソウ</sup>です。(自答)

○これも とけい<sup>ケイ</sup>ですか。(時計でないも  
のを指しながら自問)

いいえ、さう<sup>ソウ</sup>ではありません。(自答)

○これは とけい<sup>ケイ</sup>ですか。(時計を示しな  
がら)

△はい、さう<sup>ソウ</sup>です。(一人々に)

○これも とけい<sup>ケイ</sup>ですか。(時計でないも  
のを指しながら)

△いえ、さう<sup>ソウ</sup>ではありません。(一人一  
人に)

○これは なんですか。(時計を指しなが  
ら)

△とけい<sup>ケイ</sup>です。(一人々に)

「じかん<sup>オ</sup>を かぞへてみませう<sup>ショウ</sup>。」といつ  
て、時計の文字盤模型または略畫で時  
刻を示しながら、

○いちじ にじ さんじ よじ ごじ

ろくじ しちじ はちじ くじ <sup>ツユ</sup>じふ

じ じふいちじ じふにじ。(反復數回)

△いちじ にじ さんじ よじ ごじ

ろくじ しちじ はちじ くじ じふ

じ じふいちじ じふにじ。(指導者も  
和して一齊に、次に一人々に)

○いちじ にじ さんじ よじ ごじ

ろくじ。(反復數回)

△いちじ にじ さんじ よじ ごじ

ろくじ。(指導者も和して一齊に、次に一  
人一人に)

△その他

時計の文字盤模型または略畫等で時  
刻を示しながら、

○いちじです。(一時を示しながら)

○いちじですか。(一時を示しながら)

△はい、さう<sup>ソウ</sup>です。(二人々に)

○なんじですか。(一時を示しながら自問)

いちじです。(自答)

○なんじですか。(一時を示しながら)

△いちじです。(一人々に)

○いちじの つぎは にじです。(二時を  
示しながら)

○いちじの つぎは にじ<sup>ニ</sup>ですか。(二時  
を示しながら)

△はい、さう<sup>ソウ</sup>です。(一人々に)

○いちじの つぎは なんじ<sup>ニ</sup>ですか。(二  
時を示しながら自問)

にじです。(自答)

○いちじの つぎは なんじ<sup>ニ</sup>ですか。(二  
時を示しながら)

△にじです。(一人々に)

○それでは、にじの まへ<sup>マヘ</sup>は なんじ<sup>ニ</sup>  
ですか。(一時を示しながら)



△いちじです。(一人々々に)  
 ○いちじの つぎは なんじですか。(二時を示しながら)  
 △にじです。(一人々々に)  
 ○にじの つぎは さんじです。(三時を示しながら)  
 ○にじの つぎは さんじですか。(三時を示しながら)  
 △はい、さうです。(一人々々に)  
 ○にじの つぎは なんじですか。(三時を示しながら自問)  
 さんじです。(自答)  
 ○にじの つぎは なんじですか。(三時を示しながら)  
 △さんじです。(一人々々に)  
 ○それでは、さんじの まへは なんじですか。(二時を示しながら)

△にじです。(一人々々に)  
 ○にじの つぎは なんじですか。(三時を示しながら)  
 △さんじです。(一人々々に)  
 ○さんじの つぎは よじです。(四時を示しながら)  
 ○さんじの つぎは よじですか。(四時を示しながら)  
 △はい、さうです。(一人々々に)  
 ○さんじの つぎは なんじですか。(四時を示しながら自問)  
 よじです。(自答)  
 ○さんじの つぎは なんじですか。(四時を示しながら)  
 △よじです。(一人々々に)  
 ○それでは、よじの まへは なんじですか。(三時を示しながら)

△さんじです。(一人々々に)  
 ○さんじの つぎは なんじですか。(四時を示しながら)  
 △よじです。(一人々々に)  
 同様にして、五時から十二時までを提示する。  
 時計の文字盤模型または略畫等で一分から順次二十五分まで示しながら、先づ指導者のみで數へ、學習者には聴取させる。  
 ○いっぶん にぶん さんぶん しぶん  
 ごぶん ろっぶん しちぶん はちぶん  
 くん じゅぶん じふいっぶん  
 じふにぶん じふさんぶん じふしぶん  
 ん じふごぶん じふろっぶん じふしちぶん  
 しちぶん じふはちぶん じふくぶん  
 にじっぶん にじふいっぶん にじふ

にぶん にじふさんぶん にじふしぶん  
 ん にじふごぶん。(反復數回)  
 △いっぶん にぶん さんぶん しぶん  
 ごぶん ろっぶん しちぶん はちぶん  
 くん じゅぶん じふいっぶん  
 じふにぶん じふさんぶん じふしぶん  
 ん じふごぶん じふろっぶん じふしちぶん  
 しちぶん じふはちぶん じふくぶん  
 にじっぶん にじふいっぶん にじふにぶん  
 にじふさんぶん にじふしぶん  
 齊に、次に一人々々に  
 ○いっぶん にぶん さんぶん しぶん  
 ごぶん ろっぶん しちぶん はちぶん  
 くん じゅぶん じふいっぶん  
 じふにぶん じふさんぶん じふしぶん  
 ん じふごぶん じふろっぶん じふしちぶん  
 しちぶん じふはちぶん じふくぶん  
 にじっぶん にぶん さんぶん しぶん  
 ごぶん ろっぶん しちぶん はちぶん



ん くふん じっぶん。(指導者も和して一齊に次に一人々々に)

○ごふん じっぶん じふごふん にじっぶん にじふごふん。(反復數回)

△ごふん じっぶん じふごふん にじっぶん にじふごふん。(指導者も和して一齊に次に一人々々に)

(注意) できれば同様にして、更に二十

六分から六十分まで提示する

とよい。

時計の文字盤模型または略畫等で時刻を示しながら、

○いちじです。

○いちじですか。

△はい、さうです。(二人々々に)

○なんじですか。

△いちじです。(二人々々に)

○いちじ いっぶんですか。

△はい、さうです。(二人々々に)

○なんじですか。(自問)

いちじ いっぶんです。(自答)

○なんじですか。

△いちじ いっぶんです。(二人々々に)

○いちじ にふんです。(反復數回)

○いちじ にふんですか。

△はい、さうです。(二人々々に)

○なんじですか。(自問)

いちじ にふんです。(自答)

○なんじですか。

△いちじ にふんです。(二人々々に)

同様にして、一時三分から二十五分まで提示する。

その時の實際の時刻を時計で示しながら、次の如き問答をする。

○いまは ○○じ ○○ふんです。(反復數回)

○いまは ○○じ ○○ふんですか。

△はい、さうです。(二人々々に)

○いまは なんじですか。(その時の時刻を示しながら自問)

○○じ ○○ふんです。(自答)

○いまは なんじですか。(その時の時刻を示しながら)

△○○じ ○○ふんです。(一人々々に)

本に提示されてゐる時刻の問答をするために、時計の文字盤模型または略畫等で九時二十五分を示しながら、

○いまは くじ にじふごふんです。(反復數回)

○いまは くじ にじふごふんですか。

(九時二十五分を示しながら)

△はい、さうです。(二人々々に)

○いまは なんじですか。(九時二十五分を示しながら自問)

くじ にじふごふんです。(自答)

○いまは なんじですか。(九時二十五分を示しながら)

△くじ にじふごふんです。(二人々々に)

○黒板に

イマワ ナンジデスカ

クジ ニジューゴフンデス

と書き、板書の符號を指し示しながら、はつきりと、語調に注意していはせる。(指導者も和して一齊に、また一人々々に)

△板書の符號をたどつて、はつきりと、語調に注意していはせる。(指導者も和して一齊に、また一人々々に)

○本の第四頁を開かせて、繪畫を見させな



ら、符號によつて、はつきりと、語調に注意して、何遍も繰返していふ。  
 △符號をたどつて、はつきりと、語調に注意していはせる。(指導者も和して一齊に、また一人々々に)

3 總括

「いまは なんじですか。」○○じ ○○ふんです。の問答を徹底させるために、その時の實際の時刻を時計で示しながら、次の如き問答をする。

- いまは ○○じ ○○ふんです。(反復數回)  
 ○いまは ○○じ ○○ふんですか。  
 △はい、さうです。(二人々々に)  
 ○いまは なんじですか。  
 △○○じ ○○ふんです。(二人々々に)  
 本に提示されてゐる時刻の問答をする

三 備 考

- (一) イッブンがイブン・イッブンに、ジッブンがジブン・ジッブンに、ニジッブンがニジブン・ニジッブンに誤られ易いから、比較して練習させることが必要である。またイッブン・ジッブン・ニジッブンのブをブの如く半濁音を濁音に近く誤る學習者に對しては、正しい音をしばしば聽馴れさせるとともに、有氣音的に發音する練習をさせた後

ために、時計の文字盤模型または略畫等で時刻を示しながら、

- いまは くじ にじふごふんです。(反復數回)  
 ○いまは なんじですか。(反復數回)  
 △くじ にじふごふんです。(二人々々に)  
 △その他。

- (二) に自然な發音の練習をさせるのもよい。  
 ゴフンがコフンに、トケーがトケに誤られ易いから、比較して練習させることが必要である。

- (三) ゴフン・ジッブン・ジュー・ゴフン・ニジュー・ゴフン等に於ける「ン」は、寬音の如く鼻音になり過ぎないやう注意する必要がある。

- (四) 本課には補充語が多く、内容が豊富であるから、普通の課より時間を多くかけることが必要である。

- (五) 本課に於ては、一分から二十五分までを授けることとしたが、生活に即してその折折に授ける等の工夫により、更に六十分まで發展させるとよい。

- (六) 「あつい ほん「うすい ほん「は「あついの ほん「うすいの ほん「に「しろいかみ「あかい かみ「は「しろいかみ「あかい

の「かみ」に誤られることがあるから、注意が必要である。

- (七) 時刻の數へ方の如き生活語は、生活に即して、その折々に修得させておくやうに工夫すべきである。

- (八) 本課及び第五課は、「です型」による時刻または月日の數へ方の教材として、中の巻第一から第六課までと、「です型」としての上の巻第十一課から第二十三課までと連絡させることが肝要である。

- (九) 時計やその略畫の他に、時計の針を動かすことができるやうに作つた文字盤模型を利用するとよい。

- (十) 時刻の數へ方を教へるときに、チン・チンと一つ／＼音を鳴らしたり、ボン・ボンと一つ／＼手を打つたりして音感覺を通して時刻の數へ方を知らせるのもよい。



第五課 (第五頁)

一 教材

イマワ ナンガツデスカ。

ニガツデス。

キヨ一ワ ナンニチデスカ。

ジュ一イチニチデス。

構文

語彙 ナンガツ ニガツ ナンニチ ジュ一イチニチ

〔教具〕 紙白紙五枚 赤紙五枚・時計・七曜表・日めくり・掛圖等。

二 指導

(一) 要領

1 本課は、既習の構文○○です。を用ひて、

「なんぐわつ」にぐわつ、「なんにち」じふいちにち等の數詞を授け、以て月日の稱へ

方を修得させるのが主眼である。

2 本課に於ては、新語にぐわつに關聯して、一月から十二月まで(但し二月を除く)と、こんげつ「せんげつ」「らいげつ」とを、また「じふいちにち」に關聯して、一日から三十一日まで(但し十一日を除く)とを、それぞれ補充することとした。

但し、教授上の都合によつて、日の數へ方は十一日までに止めてもよい。

3 本課に於ける一月から十二月まで及び一日から三十一日までの新語の提示法は、大體前課の一時から十二時までの提示法に準據すればよい。

(二) 問答

1 復習

○これは、なんですか。(紙を示しながら)

△かみです。

○なんまい ありますか、かぞへてごらんなさい。(紙を十枚示して)

△いちに さん しご ろく しちはち じふ、じふまい あります。(二人々に)

○こゝに かみが じふまい あります。あかい かみは なんまい ありますか。(赤い紙四枚と白い紙五枚を示しながら)

△よまい あります。(二人々に)

○それでは、しろい かみは なんまい ありますか。(前の紙九枚から、赤い紙四枚を取去つた残りの五枚を示しながら)

△ごまい あります。(二人々に)

○こゝに あかい かみが さんまい



あります。

こゝに しろい かみが ごまい あ  
ります。

みんなで いくまい ありますか。(赤  
い紙三枚と白い紙五枚をそれ〴〵示  
しながら)

△はちまい あります。(二人々々に)

○こゝに とけい<sup>ケ</sup>が あります。

いまは なんじですか。(時計で適當な  
時刻を示しながら)

△○○じ ○○ふんです。(二人々々に)

○これは なんじですか。(時計で十二時  
を示しながら)

△じふにじです。(二人々々に)

「いっしよに いちじから じふにじま  
で かぞへてみませう。」といつて、

△○いちじ にじ さんじ よじ じ

ろくじ しちじ はちじ くじ じふ

じ じふいちじ じふにじ。(反復數回)

七曜表によつて、その時の實際の曜日の  
問答をする。

○けふは なにえうびですか。(當日の曜  
日を示しながら)

△○○えうびです。(二人々々に)

○それでは、きのふは なにえうびでし  
たか。(昨日の曜日を示しながら)

△○○えうびでした。(二人々々に)

○それでは、あしたは なにえうびです  
か。(明日の曜日を示しながら)

△○○えうびです。(二人々々に)

2 提示

「つきのとなへかたを れんしふしま  
せう。」といつて、七曜表で、先づ指導者のみ  
で稱へ、學習者には聴取させる。

○いちぐわつ にぐわつ さんぐわつ

しぐわつ ごぐわつ ろくぐわつ し

ちぐわつ はちぐわつ くぐわつ じ

ふぐわつ じふいちぐわつ じふにぐわ

つ。(反復數回)

△いちぐわつ にぐわつ さんぐわつ

しぐわつ ごぐわつ ろくぐわつ し

ちぐわつ はちぐわつ くぐわつ じ

ふぐわつ じふいちぐわつ じふにぐわ

つ。(指導者も和して一齊に、次に一人一  
人に)

○いちぐわつ にぐわつ さんぐわつ

しぐわつ ごぐわつ ろくぐわつ。(反

復數回)

△いちぐわつ にぐわつ さんぐわつ

しぐわつ ごぐわつ ろくぐわつ。(指

導者も和して一齊に、次に一人々々に)

△その他

それ〴〵七曜表で示す。

○いちぐわつです。(二月を示しながら)

○いちぐわつですか。(二月を示しながら)

△はい、さうです。(二人々々に)

○なんぐわつですか。(二月を示しながら)

自問

いちぐわつです。(自答)

○なんぐわつですか。(一月を示しながら)

△いちぐわつです。(二人々々に)

○いちぐわつの つぎは にぐわつです。

(二月を示しながら)

○いちぐわつの つぎは にぐわつです

か。(二月を示しながら)

△はい、さうです。(二人々々に)

○いちぐわつの つぎは なんぐわつで

すか。(二月を示しながら自問)



にぐわつです。(自答)

○いちぐわつの つぎは なんぐわつですか。(二月を示しながら)

△にぐわつです。(二人々に)

○それでは、にぐわつの まへは なんぐわつですか。(二月を示しながら)

△いちぐわつです。(二人々に)

○いちぐわつの つぎは なんぐわつですか。(二月を示しながら)

△にぐわつです。(二人々に)

○にぐわつの つぎは さんぐわつです。(三月を示しながら)

○にぐわつの つぎは さんぐわつですか。(三月を示しながら)

△はい、さうです。(二人々に)

かやうにして、三月から十二月まで提示する。

それ〴〵七曜表で示す。

○こんげつは ○〇ぐわつです。(その時の実際の月を示しながら)

○こんげつは ○〇ぐわつですか。(その時の実際の月を示しながら)

△はい、さうです。(二人々に)

○こんげつは ○〇ぐわつですか。(その時の実際の月と違つた月を示しながら)

△はい、さうです。(二人々に)

○こんげつは なんぐわつですか。(その時の実際の月を示しながら自問)

○〇ぐわつです。(自答)

○こんげつは なんぐわつですか。(その時の実際の月を示しながら)

△〇〇ぐわつです。(二人々に)

○せんげつは ○〇ぐわつでした。(先月を示しながら)

○せんげつは ○〇ぐわつでしたか。(先月を示しながら)

△はい、さうです。(二人々に)

○せんげつは ○〇ぐわつでしたか。(わざと先月と違つた月を示しながら)

△いえ、さうではありません。(二人一人に)

○せんげつは なんぐわつでしたか。(先月を示しながら自問)

○〇ぐわつでした。(自答)

○せんげつは なんぐわつでしたか。(先月を示しながら)

△〇〇ぐわつでした。(二人々に)

○らいげつは ○〇ぐわつです。(來月を示しながら)

△はい、さうです。(二人々に)

○こんげつは なんぐわつですか。(その時の実際の月を示しながら自問)

○〇ぐわつです。(自答)

○こんげつは なんぐわつですか。(その時の実際の月を示しながら)

△〇〇ぐわつです。(二人々に)

○らいげつは ○〇ぐわつですか。(來月を示しながら)

△はい、さうです。(二人々に)

○らいげつは ○〇ぐわつですか。(わざと來月と違つた月を示しながら)

△いえ、さうではありません。(二人一人に)

○らいげつは なんぐわつですか。(來月を示しながら自問)

○〇ぐわつです。(自答)

○らいげつは なんぐわつですか。(來月を示しながら)

△〇〇ぐわつです。(二人々に)

○いまは ○〇ぐわつです。(反復數回)

○いまは ○〇ぐわつですか。(その時の実際の月を示しながら)

△はい、さうです。(二人々に)



○いまは なんぐわつですか。(その時の

實際の月を示しながら)

△○○ぐわつです。(一人々々に)

「ひの となへかたを れんしふしませう。といつて、日めくりまたは七曜表で示しながら、先づ指導者のみで稱へ、學習者には聴取させる。

○いちじつ ふつか みっか よっか

いつか むいか なのか やうか このか とをか じふいちにち じふにち じふさんにち じふよっかにち じふごにち じふろくにち じふしちにち じふはちにち じふくにち はつか じふいちにち じふににち じふさんにち じふよっかにち じふごにち じふろくにち じふしちにち じふはちにち じふくにち

ち さんじふにち さんじふいちにち。

(反復數回)

△いちじつ ふつか みっか よっか

いつか むいか なのか やうか このか とをか じふいちにち じふにち じふさんにち じふよっかにち じふごにち じふろくにち じふしちにち じふはちにち じふくにち はつか じふいちにち じふににち じふさんにち じふよっかにち じふごにち じふろくにち じふしちにち じふはちにち じふくにち ち さんじふにち さんじふいちにち。(日めくりまたは七曜表でそれ／＼示しながら、指導者も和して一齊に)

△○いちじつ ふつか みっか よっか

いつか むいか なのか やうか こ

このか とをか じふいちにち じふ

ににち じふさんにち じふよっか

じふごにち。(反復數回)

△○その他。

それ／＼日めくりまたは七曜表で示す。

○いちじつです。(二日を示しながら)

○いちじつですか。(二日を示しながら)

△はい、さうです。(一人々々に)

○なんにちですか。(二日を示しながら自

問)

いちじつです。(自答)

○なんにちですか。(一日を示しながら)

△いちじつです。(一人々々に)

○いちじつの つぎは ふつかです。(二日を示しながら)

○いちじつの つぎは ふつかですか。(三日を示しながら)

○いちじつの つぎは ふつかですか。(二日を示しながら)

△はい、さうです。(一人々々に)

○いちじつの つぎは なんにちですか。(二日を示しながら自問)

ふつかです。(自答)

○いちじつの つぎは なんにちですか。(二日を示しながら)

△ふつかです。(一人々々に)

○それでは、ふつかの まへは なんにちですか。(一日を示しながら)

△いちじつです。(一人々々に)

○いちじつの つぎは なんにちですか。(二日を示しながら)

△ふつかです。(一人々々に)

○ふつかの つぎは みっかです。(三日を示しながら)

○ふつかの つぎは みっかですか。(三日を示しながら)

△ふつかです。(一人々々に)

○ふつかの つぎは みっかです。(三日を示しながら)

○ふつかの つぎは みっかですか。(三日を示しながら)

○ふつかの つぎは みっかですか。(三日を示しながら)

○ふつかの つぎは みっかですか。(三日を示しながら)



△はい、さうです。(二人々に)  
かくの如くして、三日から十日までを提  
示する。

○とをかの つぎは じふいちにちです。  
(十一日を示しながら)

○とをかの つぎは じふいちにちです  
か。(十一日を示しながら)

△はい、さうです。(二人々に)

○とをかの つぎは なんにちですか。  
(十一日を示しながら自問)

じふいちにちです。(自答)  
○とをかの つぎは なんにちですか。  
(十一日を示しながら)

△じふいちにちです。(二人々に)

○それでは、じふいちにちの まへは  
なんにちですか。(十日を示しながら)

△とをかです。(二人々に)

○とをかの つぎは なんにちですか。

(十一日を示しながら)

△じふいちにちです。(二人々に)

○じふいちにちの つぎは じふにち  
です。(十二日を示しながら)

○じふいちにちの つぎは じふにち  
ですか。(十二日を示しながら)

△はい、さうです。(二人々に)

かくの如くして、十二日から三十一日ま  
でを提示する。

○それ、日めくりまたは七曜表で示す。  
○けふは ○○にちです。(その時の實際  
の日を示しながら)

○けふは ○○にちですか。(その時の實  
際の日を示しながら)

△はい、さうです。(二人々に)

○けふは なんにちですか。(その時の實  
際の日を示しながら)

△はい、さうです。(二人々に)

○あしたは なんにちですか。(明日を示  
しながら自問)

○あしたは なんにちですか。(明日を示  
しながら)

△○○にちです。(二人々に)

○その時の實際の月日を、日めくりまたは  
七曜表で示しながら、

○けふは ○○ぐわつ ○○にちです。  
(反復數回)

○けふは ○○ぐわつ ○○にちですか。  
(その時の實際の月日を示しながら自  
問)

際の日を示しながら自問)

○○にちです。(自答)

○けふは なんにちですか。(その時の實  
際の日を示しながら)

△○○にちです。(二人々に)

○きのふは ○○にちでした。(昨日を示  
しながら)

○きのふは ○○にちでしたか。(昨日を示  
しながら)

△はい、さうです。(二人々に)

○きのふは なんにちでしたか。(昨日を示  
しながら)

△○○にちでした。(二人々に)

○あしたは ○○にちです。(明日を示し

ながら)

○あしたは ○○にちですか。(明日を示  
しながら)

△はい、さうです。(二人々に)

○あしたは なんにちですか。(明日を示  
しながら自問)

○あしたは なんにちですか。(明日を示  
しながら)

△○○にちです。(二人々に)

○その時の實際の月日を、日めくりまたは  
七曜表で示しながら、

○けふは ○○ぐわつ ○○にちです。  
(反復數回)

○けふは ○○ぐわつ ○○にちですか。  
(その時の實際の月日を示しながら自  
問)



はい、さうです。(自答)

○けふは なんぐわつ なんにちですか。

(その時の実際の月日を示しながら)

△○○ぐわつ ○○にちです。(二人々々に)

に)

○きのふは なんぐわつ なんにちでしたか。(その月の昨日を示しながら)

○〇ぐわつ ○〇にちでした。(自答)

○きのふは なんぐわつ なんにちでしたか。(その月の昨日を示しながら)

△○○ぐわつ ○〇にちでした。(二人一人に)

○あしたは ○〇ぐわつ ○〇にちです。(その月の明日を示しながら)

○あしたは ○〇ぐわつ ○〇にちですか。(その月の明日を示しながら)

△はい、さうです。(二人々々に)

○あしたは なんぐわつ なんにちですか。(その月の明日を示しながら自問)

○〇ぐわつ ○〇にちです。(自答)

○あしたは なんぐわつ なんにちですか。(その月の明日を示しながら)

△○○ぐわつ ○〇にちです。(二人々々に)

本を開かせ、繪畫を見させて、本に提示されてある月日の問答をする。

○いまは にぐわつです。(二月を示しながら)

○いまは なんぐわつですか。(二月を示しながら)

△にぐわつです。(二人々々に)

○けふは じふいちにちです。(十一日を示しながら)

○けふは なんにちですか。(十一日を示

しながら)

△じふいちにちです。(二人々々に)

○黑板に

イマワ ナンガツデスカ

ニガツデス

キョーワ ナンニチデスカ

ジューイチニチデス

と書き、板書の符號を指し示しながら、はつきりと、語調に注意して、何遍も繰返していふ。

△板書の符號をたどつて、はつきりと、語調に注意していはせる。(指導者も和して一齊に、また一人々々に)

○本の第五頁を開かせて、繪畫を見させながら、符號によつて、はつきりと、語調に注意して、何遍も繰返していふ。

△符號をたどつて、はつきりと、語調に注意

していはせる。(指導者も和して一齊に、また一人々々に)

3 總括

「いまは なんぐわつですか。」○○ぐわつです。「けふは なんにちですか。」○にちです。「の問答を徹底させるために、その時の実際の月日の稱へ方の問答をする。」

○□さん、いまは なんぐわつですか。(その時の実際の月を示しながら)

△○○ぐわつです。(二人々々に)

○けふは なんにちですか。(その時の實際の日を示しながら)

△○○にちです。(二人々々に)

○それでは、きのふは なんにちでしたか。△○○にちでした。(二人々々に)



- それでは、あしたは、なんにちですか。
- △ ○○にちです。(一人々々に)
- それでは、けふは、なんぐわつ、なんにちですか。
- △ ○○ぐわつ ○○にちです。(二人々々に)
- それでは、きのふは、なんぐわつ、なんにちでしたか。
- △ ○○ぐわつ ○○にちでした。(一人一人に)
- それでは、あしたは、なんぐわつ、なんにちですか。
- △ ○○ぐわつ ○○にちです。(二人々々に)

繪畫を見させ、本に提示されてゐる月日の問答をする。

○ いまは、なんぐわつですか。二月を示

三 備 考

- (一) ナンガツがナンカツに、ニガツがニカツに、ヨ一カがヨカに、ト一カがトカに、ミックがミカに、ヨツカがヨカに、キョ一がチョ一に誤られ易いから、比較して練習するなど、十分注意して教へることが必要である。
- (二) 本課は補充語が多く、内容が豊富である。

しながら)

△にぐわつです。(一人々々に)

○けふは、なんにちですか。(二月十一日を示しながら)

△じふいちにちです。(二人々々に)

○けふは、なんぐわつ、なんにちですか。(二月十一日を示しながら)

△にぐわつ、じふいちにちです。(一人一人に)

から、普通の課より時間を多くかけることが必要である。

(三) 月日の數へ方の如き生活語は、生活に即して、その折々に修得させておくやうに工夫することが肝要である。

(四) 月日の數へ方の教授に於ては、その時の實際の月日について十分聽取させておいてから始めるとよい。

(五) 「いちじつは、ついたち、いちにち、なのかは、なぬか」ともいふ。また「じふいちにち」「じふにち」「じふさんにち」「じふごにち」「じふろくにち」「じふしちにち」「じふはちにち」「じふくにち」「じふいちにち」「さんじふにち」等は「ジュ一イチンチ」「ジュ一ニンチ」「ジュ一サンチ」「ジュ一ゴンチ」「ジュ一ロクンチ」「ジュ一シチンチ」「ジュ一ハチンチ」「ジュ一クンチ」「ニジュ一イチンチ」「サンジュ一ンチ」等とも

發音される。



第六課 (第六頁)

一 教材

オトコノヒトガ フタリ イマス。

オンナノヒトガ ゴニン イマス。

ミンナデ イクニン イマスカ。

構文

語彙 オトコノヒト フタリ オンナノヒト ゴニン

イクニン

〔教具〕 七曜表・掛圖等。

二 指導

(一) 要領

1 本課は、既習の構文<sup>イ</sup>ります。によつて、<sup>オ</sup>

とこのひと「ふたり」<sup>オ</sup>をんなのひと「ごにん」  
「いくにん等の人の數へ方を修得させる

のが主眼である。

2 本課に於ては、新語「ふたり」「ごにん」等に  
關聯して、「ひとり」「さんにん」「よにん」「ろく  
にん」「しちにん」「はちにん」「くにん」「じふに  
ん」等の語を補充することとした。

3 本課は上の卷第二十八課と同じく、形  
は三つの單文であるけれども、意味は密  
接な關聯を保つてゐるので、それらとの  
關係を確實にたどらせることが大切で  
ある。

○せんげつは なんぐわつでしたか。

△○○ぐわつでした。

○らいげつは なんぐわつですか。

△○○ぐわつです。

○けふは なんにちですか。(その日を示  
しながら)

△○○にちです。

○きのふは、なんにちでしたか。

△○○にちでした。

○あしたは、なんにちですか。

△○○にちです。

○けふは なんぐわつ なんにちですか。  
(その日の月日を示しながら)

△○○ぐわつ ○○にちです。

○それでは、きのふは なんぐわつ な  
んにちでしたか。

△○○ぐわつ ○○にちでした。

(二) 問答

1 復習

七曜表によつて、次の如き問答をする。

○いまは なんぐわつですか。(その月を  
示しながら)

△○○ぐわつです。(二人々々に)



○あしたは なんぐわつ なんにちです  
か。

△○○ぐわつ ○○にちです。

○いまは なんじですか。(時計でその時  
の時間を示しながら)

△くじ にじふごふんです。

○その他。

2 提 示

○□さんは をとこのことです。

△△さんは をんなのこです。(男の子  
と女の子を指しながら)

○□さんは をとこのこですか、をんな  
のこですか。(男の子の□さんを指  
しながら)

△をとこのこです。(一人々々に)

○△△さんは をんなのこですか、をと  
このこですか。(女の子の△△さんを指

しながら)

△をんなのこです。

○せんせい(せんせい)は をとこのひとです。(自分  
を指しながら。女の先生であるとき  
は「せんせい」をんなのひとです。と  
なることは勿論である。)

○□さんは をとこのこです。

○せんせい(せんせい)は をとこのひとですか、を  
とこのこですか。(自分を指しながら自  
問)

をとこのひとです。(自答)

○せんせい(せんせい)は をとこのひとですか、を  
とこのこですか。(自分を指しながら)

△をとこのひとです。

○これは をとこのひとですか。(掛圖の中  
の女の人を指しながら)

○これは をとこのひとですか、をんな  
のひとですか。(掛圖の中の男の人を指  
しながら)

△をとこのひとです。

○これは をんなのひとですか、をとこ  
のひとですか。(掛圖の中の女の人を指  
しながら)

△をんなのひとです。

○それでは、これは をとこのひとです  
か。(掛圖の中の女の人を指しながら)

△いいえ、をとこのひとではありません、  
をんなのひとです。

○こゝに をとこのひとが ゐますか。

△はい、ゐます。

「それでは、いくにん ゐるか、かぞへ

てみませう。といつて、先づ指導者のみで  
數へ、學習者には聴取させる。

○ひとり ふたり さんにん よにん  
ごにん。(反復數回)

△ひとり ふたり さんにん よにん  
ごにん。(指導者も和して一齊に、次に一  
人一人に)

△ひとり ふたり さんにん よにん  
ごにん ろくにん しちにん はちに  
ん くにん じふにん。

○こゝに をとこのひとが ゐます。

ひとり ふたり さんにん よにん  
ごにん、ごにん ゐます。

○こゝに をとこのひとと をんなのひ  
とが ゐます。

ひとり ふたり さんにん よにん  
ごにん ろくにん しちにん はちに



ん くにん じふにん、 じふにん る  
ます。

○こゝに をとこのひとが ゐます。

□さん、 いくにん ゐますか、 かぞ  
へてごらん下さい。

△ひとり ふたり さんにん よにん

ごにん、 ごにん ゐます。

○こゝに をとこのひとと をんなのひ

とが ゐます。 みんなで いくにん

ゐますか、 かぞへてごらん下さい。

△ひとり ふたり さんにん よにん

ごにん ろくにん しちにん、 しちに

ん ゐます。

○こゝに をとこのひとが ひとり ゐ

ます。

こゝに をんなのひとが ひとり ゐ

ます。

みんなで いくにん ゐますか。(男の

人一人、女の一人一人を指し示しながら)

△ふたり ゐます。(一人々々に)

○こゝに をとこのひとが ひとり ゐ

ます。

こゝに をんなのひとが ふたり ゐ

ます。

みんなで いくにん ゐますか。

△さんにん ゐます。

○こゝに をとこのひとが ひとり ゐ

ます。

こゝに をんなのひとが さんにん

ゐます。

みんなで いくにん ゐますか。

△よにん ゐます。

○こゝに をとこのひとが ふたり ゐ

ます。

こゝに をんなのひとが ふたり ゐ  
ます。

△よにん ゐます。

○こゝに をとこのひとが ふたり ゐ

ます。

こゝに をんなのひとが さんにん

ゐます。

みんなで いくにん ゐますか。

△ごにん ゐます。

○こゝに をんなのひとが ごにん ゐ

ます。

こゝに をとこのひとが ひとり ゐ

ます。

みんなで いくにん ゐますか。

△ろくにん ゐます。

○こゝに をんなのひとが ごにん ゐ

ます。

こゝに をとこのひとが ふたり ゐ

ます。

みんなで いくにん ゐますか。

△しちにん ゐます。

更に、同様にして「ごにん」と「さんにん」「さん

にん」と「ろくにん」「よにん」と「ろくにん」「ご

にん」と「ごにん」等の合計に關する問答を

試みる。

○黒板に

オトコノヒトガ フタリ イマス

オンナノヒトガ ゴニン イマス

ミンナデ イクニン イマスカ

と板書し、符號によつて、語調に注意し、は

つきりした發音で、數回範讀し、次に學習

者の一人々々に讀ませる。

更に本の第六頁を開かせ、繪畫と符號を



見させて、前に準じて範讀後、一人々々に  
讀ませる。

2 總括

「をとこのひとが ○○にん ゐます。」  
「をんなのひとが △△にん ゐます。」  
の「○にん」「△△にん」の合計が、それぐ  
二人から十人までになる練習をする。  
例へば、

○をとこのひとが よにん ゐます。  
をんなのひとが ふたり ゐます。  
みんなで いくにん ゐますか。(男の  
人四人と女の人二人を指し示しなが  
ら)

△ろくにん ゐます。(二人々々に)  
○をとこのひとが よにん ゐます。  
をんなのひとが さんにん ゐます。  
みんなで いくにん ゐますか。

三 備 考

△しちにん ゐます。  
○をとこのひとが よにん ゐます。  
をんなのひとが よにん ゐます。  
みんなで いくにん ゐますか。  
△はちにん ゐます。  
○をとこのひとが よにん ゐます。  
をんなのひとが ごにん ゐます。  
みんなで いくにん ゐますか。  
△くにん ゐます。  
○をとこのひとが ごにん ゐます。  
をんなのひとが ごにん ゐます。  
みんなで いくにん ゐますか。  
△じふにん ゐます。  
△○その他。

(一) ゴニンをゴーニンの如くゴの短音

をゴーと長音に誤る學習者に對しては、  
正しい音をしばく、聽馴れさせるとと  
もに、長音化せられる短音の次の音を  
や長すぎるくらゐに延ばして練習させ  
た後に、自然な發音の練習をさせるのも  
よい。

(二) オトコノヒト・オンナノヒト・ヒトリ等  
のヒをシに誤る學習者に對しては、正し  
い音をしばく、聽馴れさせるとともに、  
ヒをイに近く發音する練習をさせてか  
ら、自然な發音の練習をさせるのもよい。  
またオコトノヒトがオドゴノシドに、オ  
ンナノヒトがオンナノシドに、ヒトリが  
シドリに誤られ易いから、比較して練習  
するなど、十分注意して教へることが必  
要である。

(三) ゴニンのアクセントは、副詞的に用ひ

られた場合は平板であるが、單獨の名詞  
として用ひられる場合はゴニンとなる。  
(四) 中の卷第一課から本課までは、物の數  
へ方に關する一聯の教材であるから、こ  
こまで纏めて總復習することが肝要で  
ある。よつて、本課には普通の課より時  
間を多く配當することが必要である。  
(五) 「ゐます型」としての上の卷第八第九第  
二十九第三十第三十一第三十三第三十  
四の各課と連絡させることが大切であ  
る。



第七課 (第七頁)

一 教材

ツキガ デマシタ。

ヤマノ ウエニ マルイ ツキガ デマシタ。

構文

語彙 ツキ デ(マシタ) ヤマ マルイ

〔教具〕 掛圖等。

二 指導

(一) 要領

1 本課は、月に關する教材で、既習の構文「〇〇しました。」によつて、「つき」で(ました)「やま」「まるい」等の語彙を修得させるのが

主眼である。

2 本課は月に關する教材であるが、第七課から第九課までは、月・星・空等の天文に關する一聯の教材であるから、相互の連絡に留意することが肝要である。

(二) 問答

1 復習

○を<sup>オ</sup>とこのひとが ごとに る<sup>イ</sup>ます。

を<sup>オ</sup>んなのひとも ごとに るます。

みんな<sup>エ</sup>で いくにん るますか、かぞへてごらんさい。(掛圖で指し示しながら)

△ひとり ふたり さんにん よにん

ごにん ろくにん しちにん はちにん

ん くにん じふ<sup>ニ</sup>にん、 じふにん る

ます。(二人々に)

○をとこのひとが ふたり るます。を

んなのひとが ごとに るます。みんな

で いくにん るますか。

△しちにん るます。

○ほんは どこに ありますか。(本を教

卓の上におきながら)

△つく<sup>エ</sup>ゑの うへに あります。

○さん、いくさつ ありますか、か

ぞへてごらんさい。(五冊示しながら)

△いっさつ にさつ さんさつ しさつ

ごさつ、ごさつ あります。

○みなさんの つくゑの うへにも ほん

んが ありますか。

△はい、あります。

○さん、その ほんを おあけなさい。

△はい。

○さんは いま なにを しました

か。

△ほんを あけました。

○さん、およみなさい。

△はい。

○さんが いま ほんを よみまし



た。

△○その他

2 提示

○これは つきです。(掛圖の中の月を指しながら)

これは やまです。(山を指しながら)

○これは つきではありません。(山を指し示しながら)

○これは つきですか。

△はい、さうです。

○これも つきですか。(山を指し示しながら)

△いいえ、さうではありません。

○これは なんですか。

△つきです。

○これは まるい つきです。(圓い月を掛圖で示し、または板書して)

○これは まるい つきではありません。(三日月を掛圖で示し、または板書して)

○これは まるい つきですか。(圓い月を掛圖で示し、または板書して)

△はい、さうです。

○これも まるい つきですか。(三日月を掛圖で示し、または板書して)

△いいえ、さうではありません。

○これは どんな つきですか。(圓い月を掛圖で示し、または板書して)

△まるい つきです。

○これは やまです。(掛圖の中の山を指しながら)

○これは やまですか。(掛圖の中の山を指しながら)

○はい、さうです。

○これは なんですか。(掛圖の中の山を

指しながら)

△やまです。

○やまの うへに まるい つきが でてゐます。(掛圖で、山上に圓い月の出てゐるのを示しながら)

○やまの うへに まるい つきが でてゐますか。(掛圖で、山上に圓い月の出てゐるのを示しながら自問)

はい、でてゐます。(自答)

○やまの うへに まるい つきが でてゐますか。

△はい、でてゐます。

○やまの うへに まるい つきが できました。(掛圖で、山上に圓い月の出たのを示しながら)

○やまの うへに まるい つきが できましたか。(自問)

はい、できました。(自答)

○やまの うへに なにが できましたか。(掛圖で、月の出たのを示しながら)

△つきが できました。

○やまの うへに どんな つきが できましたか。(掛圖で、圓い月を示しながら)

△まるい つきが できました。

○どこに まるい つきが できましたか。(掛圖で、山の上を指し示しながら)

△やまの うへに できました。

○どこに どんな つきが できましたか。

△やまの うへに まるい つきが できました。

○黒板に

ツキガ デマシタ

ヤマノ ウエニ マルイ ツキガ デマシタ



と板書し、符號によつて、語調に注意し、はつきりした發音で數回範讀し、次に學習者の一人々に讀ませる。更に本の第七頁を開かせて、前に準じて範讀後、一人々に讀ませる。

### 三 備考

- (一) ツキのキをチに誤る者に對しては、正しい音をしばく聽馴れさせるとともに、カキクケコ「カケキコク」等を正しく發音する練習をさせた後に、ツキの發音をしばくば發音させるのもよい。
- (二) デマシタがデマシダに誤られ易いから、比較して練習させるなど、十分注意して教へることが必要である。
- (三) 動作の完了型(ました)としての上の卷第四十五第四十六第四十七第四十八の各課及び〇〇のうへ(した「まへ」うしろ「なか」そと)に『を修得させる上の卷第九第三十二第三十三第三十四の各課と十分連絡させることが肝要である。

### 3 總括

- つきが できましたか。(掛圖で、月の出たのを指し示しながら)
- △はい、 できました。(二人々に)
- どこに できましたか。
- △やまの うへに できました。
- どんな つきが できましたか。
- △まるい つきが できました。
- どこに どんな つきが できましたか。
- △やまの うへに まるい つきが できました。
- △〇その他。

## 第八課 (第八頁)

### 一 教材

ホシガ タクサン デテイマス。

オーキイノモ チーサイノモ アリマス。

構文 ○○ノモ ○○ノモ アリマス。

語彙 ホシ タクサン (ノモ)

〔教具〕 机(多數)・椅子(多數)・白墨<sup>白</sup>・紙<sup>白</sup>・本<sup>小</sup>・掛圖等。

### 二 指導

#### (一) 要領

1 本課は、星に關する教材で、主語の併列された構文、〇〇のも〇〇のもあります。

を授けるとともに、「ほし」「たくさん」等の語彙を修得させるのが主眼である。

2 本課に於ては、新語「たくさん」に關聯して「すこし」を、また「おなじ」「いろ」「おほきさ」



等の語彙をも補充することとした。

- 3 「おほきいのも ちひさいのも あります。授けるには、先づ「おほきい」も あります。「ちひさい」も あります。「ちひさい」も あります。から入つて、「おほきい」も あります。「ちひさい」も あります。に進み、それから「おほきい」も ちひさいのも あります。「おほきい」も ちひさいのも あります。」を授けるとよい。

- 4 「おほきいのも ちひさいのも」の「は、形容詞を名詞化する語である。

(二) 問 答

1 復習

- この 魚を<sup>エサ</sup> ごらんなさい。
- さん、つきが でてゐますか。(月の出てる掛圖を指し示しながら)
- △はい、でてゐます。(二人々に)

- つきは どこに できましたか。
- △やまの うへ<sup>エ</sup>に できました。
- どんな つきが できましたか。
- △まるい つきが できました。
- どこに どんな つきが できましたか。
- △やまの うへに まるい つきが できました。
- △その他。

2 提示

- これは つきです。(掛圖の中の月を指し示しながら)
- これは ほしです。(星を指しながら)
- これは おほきい ほしです。(大きい星を掛圖または板書の略畫で示しながら)
- これは ちひさい ほしです。(小さい星を指し示しながら)

- ここに つくゑ<sup>エ</sup>が たくさん あります。

す。(教室の机を指し示しながら)

ここに ほんが すこし あります。

(教卓上の本を指し示しながら)

- ここに つくゑが たくさん ありますか。

△はい、たくさん あります。

- ここに、ほんが すこし ありますか。

△はい、え、たくさん あります。

- ここに つくゑが たくさん ありますか、すか、すこし ありますか。

△たくさん あります。

- いすも たくさん ありますか。

△はい、たくさん あります。

- はくぼくが すこし ありますか。

△はい、すこし あります。

- はくぼくが たくさん ありますか。

△はい、え、たくさん ありません。

- この 魚を<sup>エサ</sup> ごらんなさい。

ほしが たくさん でてゐます。(掛圖で指しながら)

- ほしが すこし でてゐますか、たくさん でて ゐますか。

△たくさん でてゐます。

- ここに かみが あります。

あかい かみが あります。

しろい かみも あります。(赤い紙と白い紙をそれ／＼示しながら)

- これは あかい かみです。

○これは しろい かみです。

- これは あかいのですか、しろいのですか。(赤い紙を示しながら自問)

あかいのです。(自答)

- どれが あかいのですか。(赤白いろい



ろな紙の中から、赤い紙を取出しながら  
ら自問)

これが あかいのです。(赤い紙を示して)

これも あかいのです。(他の赤い紙を示して自答)

○それが あかいのですか。

△それが あかいのです。

○この かみは みんな おなじ いろいろですか。(赤白いろ／＼な紙を示しながら自問)

いゝえ、さうではありませぬ。あかいのも あります。しろいのも あります。(自答)

○この かみは みんな おなじ いろいろですか。

△いゝえ、さうではありませぬ。あかい

のも あります。しろいのも あります。

○この はくぼくは みんな おなじ いろいろですか。(赤白いろ／＼の白墨を示しながら)

△いゝえ、さうではありませぬ。あかいのも しろいのも あります。

○この ほんは みんな おなじ おほきさですか。(大小の本を示して自問)

いゝえ、さうではありませぬ。おほきいのも ちひさいのも あります。(自答)

○この 点を ごらん下さい。

おほきい ほしも あります。ちひさい ほしも あります。(掛圖で、

大きい星、小さい星をそれ／＼指しな

がら)

○これは おほきい ほしです。

これは ちひさい ほしです。(掛圖の星を指し示しながら)

○これは おほきい ほしですか、ちひさい ほしですか。

△おほきい ほしです。

○それが おほきいのですか。(大きい星を指し示しながら)

△それが おほきいのです。

○それが ちひさいのですか。

△それが ちひさいのです。

○ほしは みんな おなじ おほきさですか。

△いゝえ、さうではありませぬ。おほき

いのも ちひさいのも あります。

○ほしは みんな おほきいのですか。

のも あります。しろいのも あります。

○この はくぼくは みんな おなじ いろいろですか。(赤白いろ／＼の白墨を示しながら)

△いゝえ、さうではありませぬ。あかいのも しろいのも あります。

○この ほんは みんな おなじ おほきさですか。(大小の本を示して自問)

いゝえ、さうではありませぬ。おほきいのも ちひさいのも あります。(自答)

○この 点を ごらん下さい。

おほきい ほしも あります。ちひさい ほしも あります。(掛圖で、

大きい星、小さい星をそれ／＼指しな

△いゝえ、さうではありませぬ。おほき

いのも ちひさいのも あります。

△その他。

○黒板に

ホシガ タクサン デテイマス

オーキイノモ チーサイノモ アリマ

ス

と板書し、符號によつて、語調に注意し、はつきりした發音で數回範讀し、次に學習者の一人々々に讀ませる。

更に本の第八頁を開かせて、前に準じて範讀後、一人々々に讀ませる。

3 總括

○こゝに はくぼくが あります。

あかいのも しろいのも あります。

(赤白いろ／＼の白墨を示しながら)

○この はくぼくは みんな おなじ



いろですか。(赤白いろく)の白墨を示しながら)

○いゝえ、さうではありません。あかいのも、しろいのも、あります。

○この、はくぼくは、みんな、あかいのですか。

△いゝえ、あかいのも、しろいのも、あります。

○この、ゑを、ごらんなさい。

ほしが、たくさん、でてゐます。

ほしは、みんな、おなじ、おほきさですか。(掛圖で示しながら)

△いゝえ、さうではありません。おほきいのも、ちひさいのも、あります。

○ほしは、みんな、おほきいのですか。

△いゝえ、おほきいのも、ちひさいのも、あります。

△○その他。

### 三 備考

(一) デテイマスが、デテイマスに、オキイが、オキイ・オイチイに誤られ易いから、比較して練習するなど、十分注意して教へることが必要である。

(二) 本課は星に関する教材であるが、第七課から第九課までは月・星・空等に關する一聯の教材であるから、相互の連絡に留意することが肝要である。

## 第九課 (第九頁)

### 一 教材

ソラガ ハレテイマス。

タコガ タカク アガツテイマス。

構文

語彙 ソラ ハレ(テ) タコ タカク アガツ(テ)

〔教具〕 凧・掛圖等。

### 二 指導

#### (一) 要領

- 1 本課は、既習の構文「てゐます」によつて「そら」「はれて」「たこ」「たかく」「あがつて」等の語彙を修得させるのが主眼である。
- 2 本課に於ては、新語「はれて」「たかく」に關

#### (二) 問答

- 1 復習  
第七課の掛圖によつて、

聯して「くも(雲)」「くもつて」「ひくく」等の語彙を補充することとした。



- つきが できましたか。
- △はい、 できました。
- どこに できましたか。
- △やまの うへに できました。
- どんな つきが できましたか。
- △まるい つきが できました。
- それでは、どこに どんな つきが できましたか。
- △やまの うへに まるい つきが できました。
- △その他
- その他
- この 点を ごらん下さい。
- ほしが たくさん でてゐます。
- ほしは みんな おなじ おほきさですか。
- △はい、え、おほきいのも ちひさいのも

- あります。
- △その他
- 2 提示
- みなさん、あちらを ごらん下さい。
- あれは そらです。(窓外の空を指し示しながら)
- あれは なんですか。
- △そらです。
- そらに くもが ありません。
- そらが はれてゐます。(掛圖によつて示しながら)
- いゝ てんきです。
- そらが はれてゐますか。
- △はい、 はれてゐます。
- そらが はれてゐますか、くもってゐますか。
- △はれてゐます。

- これは たこです。(風の實物掛圖または略畫の板書等で示しながら)
- これは なんですか。
- △たこです。
- たこが あがってゐます。(掛圖または略畫で示しながら)
- たこが あがってゐますか。
- △はい、 あがってゐます。
- いま、たこが あがってゐますか。(掛圖を閉ち、または略畫を消して)
- △はい、え、 あがってゐません。
- たこが あがってゐます。いくつ あがってゐますか、かぞへてごらん下さい。
- △ひとつ ふたつ みっつ、 みっつ あがってゐます。
- これは たかい つくゑです。

- これは ひくい こしかけです。
- これは どんな つくゑですか。
- △たかい つくゑです。
- これは どんな こしかけですか。
- △ひくい こしかけです。
- たこが たかく あがってゐます。
- たこが ひくく あがってゐます。
- たこが たかく あがってゐますか、ひくく あがってゐますか。
- △たかく あがってゐます。
- たこは みんな たかく あがってゐますか。
- △はい、みんな たかく あがってゐます。
- △その他
- 黒板に
- ソラガ ハレテイマス



タコガ タカク アガッテイマス  
と書き、符號によつて、語調に注意し、はつきりした發音で數回範讀し、次に學習者の一人々々に讀ませる。  
更に本の第九頁を開かせ、繪畫と符號を見させて、前に準じて範讀後、一人々々に讀ませる。

3 總括

掛圖によつて

○いゝ てんきですか、わるい てんきですか。  
△いゝ てんきです。

○そらが はれてゐますか、くもつてゐますか。  
△はれてゐます。

○これは なんですか。  
△たこです。

三 備考

- たこが あがつてゐますか。
  - △はい、あがつてゐます。
  - たこが たかく あがつてゐますか。
  - △はい、たかく あがつてゐます。
  - たこが ひくく あがつてゐますか。
  - △いゝえ、たかく あがつてゐます。
  - たこは みんな たかく あがつてゐますか。
  - △はい、みんな たかく あがつてゐます。
  - △その他。
- (一) アガッテイマスが、アガッデイマス・アガデイマス等に、クモッテイマスが、クモッデイマス・クモデイマス等に、タコがタゴに、タカクがタガクに、ヒククがヒググ・シ

ククに誤られ易いから、注意して練習させることが必要である。

(二) ハレテイマスは、アクセントによつてハレテイマス(ハレル晴)ハレテイマス(ハレル腫)の區別を生ずる。

(三) 中の卷第一課の「さいてゐます(咲)」、第八課の「でてゐます(出)」、本課の「はれてゐます(晴)等は、同じ「てゐます型」でも、學習上困難なものであるから、類例をできるだけ多く練習させることが肝要である。

(四) 第七課から始る月・星空等に關する教材は、一應本課で終つてゐるから、こゝで總めて總復習することが肝要である。  
本課は次課の兒童遊戯教材に聯關する風上げの教材でもある。



第十課 (第十頁)

一 教材

ワタクシワ オトトイ コーエンエ イキマシタ。  
 コドモガ オーゼー アソンデイマシタ。  
 構文 ○○ガ ○○ ○○テ(デ)イマシタ。  
 語彙 オトトイ コーエン イキ(マシタ) オーゼー  
 アソン(デ) (アソンデ)イマシタ  
 符號 ゼ

〔教具〕 掛圖等。

二 指導

(一) 要領

1 本課は兒童の遊戯に關する教材で、新

構文○○が□○○(で)ゐました。を授  
 けるとともに、「を」とひ「こうゑん」「いき  
 (ました)」「おほせい」「あそん(で)」「あそんで」

ゐました。等の語彙を修得させるのが主眼である。

2 本課に於ては、新語をととひ「いきまし  
 た」に關聯して、「あさつて」「きました」等の語  
 を補充し、更に「いきませんでした」「あそん  
 でるませんでした」等の否定の過去形を  
 も補つた。

○たこが たかく あがってるますか。  
△はい、たかく あがってるます。

第八課の掛圖によつて、  
 ○この ゑを ごらんなさい。  
 ほしが たくさん でてゐますか。  
 △はい、たくさん でてゐます。  
 ○ほしは みんな おなじ おほきさで  
 すか。  
 △はい、さうではありません。おほき  
 いのも ちひさいのも あります。

(二) 問答

1 復習

第九課の掛圖によつて、

○この ゑを ごらんなさい。  
 そらが はれてゐますか、くもってる  
 ますか。  
 △はれてゐます。

○これは なんですか。  
 △たこです。

第七課の掛圖によつて、

○この ゑを ごらんなさい。  
 つきが できましたか。  
 △はい、できました。  
 ○どこに できましたか。  
 △やまの うへに できました。  
 ○どんな つきが できましたか。



△まるい つきが できました。  
 ○どこに どんな つきが できましたか。  
 △やまの うへに まるい つきが できました。

△○その他。

2 提示

その時の實際の曜日について、次の如き  
 問答をする。

○<sup>キョウ</sup>けふは なにえうびですか。(七曜表に  
 よつて示しながら)

△○えうびです。(一人々々に)

○きのふは なにえうびでしたか。

△○えうびでした。

○<sup>オ</sup>をとひは なにえうびでしたか。(自  
 問)

○えうびでした。(自答)

○をとひは なにえうびでしたか。

△○えうびでした。

○それでは、あしたはなにえうびですか。

△○えうびです。

○あさっては、なにえうびですか。

△○えうびです。

この方法で、その時の實際の日について  
 も同様な問答を試みる。

○わたくしは あるいてゐます。(以下實  
 演)

○わたくしは さんの まへへい  
 きます。

○わたくしは さんの うしろへ  
 いきます。

○わたくしは へやの そとへ いきます。  
 す。

△○その他。

○わたくしは さんの まへへい

きました。

○わたくしは さんの うしろへ

いきました。

○わたくしは へやの そとへ いきま  
 した。

△○その他。

○わたくしは さんの まへへい

きましたか。(自問)

はい、いきました。(自答)

○わたくしは どこへ きましたか。

△さんの まへへ きました。

以下同様にして、自問自答及び學習者と  
 問答をする。

○あなたは いま <sup>ガクコウ</sup>がくかうに います。

あなたは <sup>ケフ</sup>けふ <sup>ガクコウ</sup>がくかうへ しまし  
 た。

あなたは <sup>キノフ</sup>きのふ <sup>ガクコウ</sup>がくかうへ しま  
 した。

した。

○あなたは <sup>ケフ</sup>けふ <sup>ガクコウ</sup>がくかうへ しまし  
 たか。

△はい、きました。

○あなたは <sup>ケフ</sup>けふ どこへ きましたか。

△<sup>ガクコウ</sup>がくかうへ きました。

△○その他。

○<sup>コラ</sup>ごらんさい。これは <sup>コウ</sup>こうゑんです。

(掛圖を指し示して)

○<sup>オ</sup>をとこのこと <sup>オ</sup>をんなのことが <sup>アソ</sup>あそん  
 であります。

○をとこのこと <sup>オ</sup>をんなのことが <sup>アソ</sup>あそん  
 でありますか。(自問)

あそんでありますか。(自問)

いゝえ、<sup>オホ</sup>おほぜい <sup>アソ</sup>あそんであります。

(自答)

○これは どこですか。

△<sup>コウ</sup>こうゑんです。



○をとこのこと をんなのこが あそんでるますか。

△はい、あそんでるます。

○おほぜい あそんでるますか。

△はい、おほぜい あそんでるます。

△その他。

○あなたは をととひ がくかうへ きましたか。

△はい、きました。(または、いゝえ、きませんでした。)

○こどもが おほぜい あそんでるましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。(または、いゝえ、あそんでるませんでした。)

○あなたは をととひ こうゑんへ きましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。

○こどもが おほぜい あそんでるましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。(または、いゝえ、あそんでるませんでした。)

○あなたは をととひ こうゑんへ きましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。

○こどもが おほぜい あそんでるましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。(または、いゝえ、あそんでるませんでした。)

更に本の第十頁を開かせ、繪畫と符號を見させて、前に準じて範讀後、一人々々に讀ませる。

3 總括

○あなたは きのおふ がくかうへ きましたか。

△はい、きました。(または、いゝえ、きませんでした。)

○あなたは きのおふ どこへ きましたか。

△はい、きました。(または、いゝえ、あそんでるました。)

○こどもが おほぜい あそんでるましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。(または、いゝえ、あそんでるませんでした。)

○あなたは きのおふ どこへ きましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。(または、いゝえ、あそんでるませんでした。)

○こどもが おほぜい あそんでるましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。(または、いゝえ、あそんでるませんでした。)

○あなたは きのおふ どこへ きましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。(または、いゝえ、あそんでるませんでした。)

△いゝえ、いきませんでした。(または、はい、きました。)

○あなたは をととひ どこへ きましたか。

△はい、きました。

○こどもが おほぜい あそんでるましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。(または、いゝえ、あそんでるませんでした。)

○あなたは をととひ こうゑんへ きましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。

○こどもが おほぜい あそんでるましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。(または、いゝえ、あそんでるませんでした。)

○あなたは をととひ こうゑんへ きましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。

○こどもが おほぜい あそんでるましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。(または、いゝえ、あそんでるませんでした。)

○あなたは をととひ こうゑんへ きましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。

○こどもが おほぜい あそんでるましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。(または、いゝえ、あそんでるませんでした。)

こどもが おほぜい あそんでるましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。

○をとこのこも をんなのこも あそんでるますか。

△はい、(をとこのこも をんなのこも) あそんでるます。

○をとこのひとも をんなのひとも あそんでるますか。

△はい、(をとこのひとも をんなのひとも) あそんでるます。

○をとこのひとも をんなのひとも あそんでるますか。

△はい、(をとこのひとも をんなのひとも) あそんでるます。

○あなたは をととひ どこへ きましたか。

△はい、(をとこのひとも をんなのひとも) あそんでるます。

○こどもが おほぜい あそんでるましたか。

△はい、おほぜい あそんでるました。(または、いゝえ、あそんでるませんでした。)

三 備考

(一) コーエンがコエンに、オーゼーがオゼー、オゼーに、ワタクシがワダクシ、ワダグシに、オトトイがオドドイに、イキマシタが



イチマシタ・イケマシタに誤られ易いから、注意して練習させることが必要である。

(二) 本課に新しく提出された構文「○○てゐました。は、過去に於ける動作の状態を示すものであるから、提示總括の項で示した例に準じて、更に類例を多くして練習させるとよい。

(三) 「こうゑんへ いきました。」の「こうゑんへ」は「こうゑんに」といつてもよい。

(四) 本課及び次の課は、いづれも児童の遊戯に關する一聯の教材であるから、相互の連絡に十分注意することが肝要である。

第十一課 (第十一頁)

一 教材

コドモワ ナニオ シテイマスカ。

スナデ ヤマオ コシラエテイマス。

構文 「○○デ」「○○オ」「○○テイマス」。

語彙 スナ (デ) コシラエ(テ)

符號

〔教具〕 白墨・鉛筆・筆・砂・掛圖等。

二 指導

(一) 要領

1 本課は、「○○で○○を○○○○てゐます。」といふ構文を授けるとともに、「すな(すなき)

で(こしらへて)等の語彙を修得させるのが主眼である。

2 本課に於ては、「あるき(ます)」、「み(ます)」、「き(ます)」、「き(木)」、「だれ等の語彙を補充する



こととした。  
3. 「すなで」の如く製作の材料を表はす意の助詞の用法を、類例によつて十分練習させることが大切である。

(二) 問 答

1 復習

○あなたは <sup>ワ</sup>きのふ <sup>ノ</sup>どこへ <sup>エ</sup>いきましたか。  
△○○へ <sup>エ</sup>いきました。

○あなたは <sup>オ</sup>をととひ <sup>イ</sup>どこへ <sup>エ</sup>いきましたか。  
△○○へ <sup>エ</sup>いきました。

○これは <sup>エ</sup>どこですか。(掛圖の繪を示して)

△こう <sup>エ</sup>ゑんです。  
○こどもが <sup>オ</sup>おほぜい <sup>イ</sup>あそんで <sup>エ</sup>ゐます

か。  
△はい、おほぜい <sup>オ</sup>あそんで <sup>エ</sup>ゐます。  
○ <sup>オ</sup>をとこの <sup>オ</sup>ことも <sup>オ</sup>をんなの <sup>オ</sup>ことも <sup>エ</sup>あそんで <sup>エ</sup>ゐますか。

△はい、( <sup>オ</sup>をとこの <sup>オ</sup>ことも <sup>オ</sup>をんなの <sup>オ</sup>ことも <sup>エ</sup>あそんで <sup>エ</sup>ゐます。

△○その他

2 提示

○わたくしは <sup>エ</sup>あるいて <sup>エ</sup>ゐます。(實演)

○わたくしは <sup>ア</sup>あしで <sup>エ</sup>あるきます。

○わたくしは <sup>メ</sup>めで <sup>ミ</sup>みます。

○わたくしは <sup>ミ</sup>みで <sup>キ</sup>きます。

○わたくしは <sup>ナ</sup>なんで <sup>ア</sup>あるきますか。

(自問)

あしで <sup>ア</sup>あるきます。(自答)

△○その他

○わたくしは <sup>エ</sup>ゑを <sup>オ</sup>かいて <sup>エ</sup>ゐます。

○なんで <sup>カ</sup>かいて <sup>エ</sup>ゐますか。(自問)

はく <sup>ホ</sup>ぼくで <sup>カ</sup>かいて <sup>エ</sup>ゐます。(自答)

○わたくしは <sup>ジ</sup>を <sup>カ</sup>かいて <sup>エ</sup>ゐます。

○なんで <sup>カ</sup>かいて <sup>エ</sup>ゐますか。(自問)

はく <sup>ホ</sup>ぼくで <sup>カ</sup>かいて <sup>エ</sup>ゐます。(自答)

○わたくしは <sup>ハ</sup>はく <sup>ホ</sup>ぼくで <sup>ナ</sup>なにを <sup>シ</sup>て <sup>エ</sup>ゐますか。(自問)

じを <sup>カ</sup>かいて <sup>エ</sup>ゐます。(自答)

△○その他

○ほんは <sup>カ</sup>かみで <sup>コ</sup>しらへ <sup>エ</sup>ます。

つく <sup>ツ</sup>ゑは <sup>キ</sup>きで <sup>コ</sup>しらへ <sup>エ</sup>ます。

○ほんは <sup>ナ</sup>んで <sup>コ</sup>しらへ <sup>エ</sup>ますか。(自問)

問

かみで <sup>コ</sup>しらへ <sup>エ</sup>ます。(自答)

○ほんは <sup>ナ</sup>んで <sup>コ</sup>しらへ <sup>エ</sup>ますか。

△かみで <sup>コ</sup>しらへ <sup>エ</sup>ます。

△○その他

△やまを <sup>コ</sup>しらへ <sup>エ</sup>て <sup>エ</sup>ゐます。  
但し、實物を示さない場合には掛圖を用ひてもよいが、その時には提示の方法は次のやうにする。

○これは <sup>ス</sup>すなです。(實物を示して)

○わたくしは <sup>ヤ</sup>やまを <sup>コ</sup>しらへ <sup>エ</sup>て <sup>エ</sup>ゐます。

○わたくしは <sup>ス</sup>すなで <sup>ヤ</sup>やまを <sup>コ</sup>しらへ <sup>エ</sup>て <sup>エ</sup>ゐます。

○わたくしは <sup>ナ</sup>なにを <sup>コ</sup>しらへ <sup>エ</sup>て <sup>エ</sup>ゐますか。

△やまを <sup>コ</sup>しらへ <sup>エ</sup>て <sup>エ</sup>ゐます。

○なんで <sup>コ</sup>しらへ <sup>エ</sup>て <sup>エ</sup>ゐますか。

△すなで <sup>コ</sup>しらへ <sup>エ</sup>て <sup>エ</sup>ゐます。

△○その他

○わたくしは <sup>ス</sup>すなで <sup>ナ</sup>なにを <sup>シ</sup>て <sup>エ</sup>ゐますか。

△やまを <sup>コ</sup>しらへ <sup>エ</sup>て <sup>エ</sup>ゐます。

但し、實物を示さない場合には掛圖を用ひてもよいが、その時には提示の方法は次のやうにする。



○ごらんなさい、こゝに ころもが ぶたり あります。

○この ころもは やまを こしらへて あります。

○この ころもは すなで やまを こしらへてあります。

○この ころもは なにを してあります か。(自問)

やまを こしらへてあります。(自答)

○この ころもは なんて やまを こしらへてありますか。(自問)

すなで (やまを) こしらへてあります。(自答)

○この ころもは なにを してあります か。

△やまを こしらへてあります。

○この ころもは なんて やまを こ

しらへてありますか。

△すなで (やまを) こしらへてありますか。

○だれが こしらへてありますか。

△ころもが こしらへてあります。

○あなたも こしらへてありますか。

△いえ、こしらへていません。

△その他。

○黒板に

コドモワ ナニオ シテイマスカ  
スナデ ヤマオ コシラエテイマス  
と書き、符號によつて、語調に注意し、はつきりした發音で數回範讀し、次に學習者の一人々々に讀ませる。

3 總括

更

更に本の第十一頁を開かせ、繪畫と符號を見させて、前に準じて範讀後、一人々々に讀ませる。

○わたくしは なにを してありますか。

△あなたは 魚を かいてあります。

○なんで 魚を かいてありますか。

△はくぼくで かいてあります。

○わたくしは なんて なにを してあります か。

△はくぼくで 魚を かいてあります。

○この ころもは なにを してありますか。(掛圖を指して)

△やまを こしらへてあります。

○なんで やまを こしらへてありますか。

△すなで (やまを) こしらへてあります。

△その他。

### 三 備 考

(一) キ(木)デがチデに、シテイマスがシデイ

マスに、コシラエテイマスがコシラエデ

イマスに、ワタクシがワダクシ・ワダグシに誤られ易いから、比較して練習するなど、十分注意して教授することが必要である。

(二) アルキマス・キキマス・キ(木)等のキの發音が困難であるから、注意して練習することが大切である。

(三) 第十課第十一課は兒童の遊戲に関する一聯の教材であるから、こゝでまとめて總復習することが肝要である。

(四) 「やまをこしらへてあります。」を「やまにこしらへてあります。」の如く、ををにに誤り易いから注意を要する。



第十二課 (第十二頁)

一 教材

コレワ ナンノ エデスカ。

ワカリマセン。

コレワ サクラノハナデス。

構文

語彙 ワカリ(マセン) サクラノハナ

〔教具〕 支那語の本、牡丹・梅・富士山の繪、掛圖等。

二 指導上

(一) 要領

1 本課は、櫻の花に關する教材で、既習の構文によつて「わかりません」「さくら」

はな等の語彙を修得させるのが主眼である。

2 本課に於ては「しなご」「ぼたんのはな」「うめのはな」「ふじさん等の語彙を補充する

こととした。

3 本課では、上の卷第二十課の「わたくしのペン」の如き所有の「第二十三課の「たなかさん」のです。の如く、の下の體言を略した所有の「の」用法から進んで、なんの<sup>エ</sup>の如く體言に附いてに關するの意を表はす「の」用法を修得させることが肝要である。

板書しながら)

△やまを かいてゐます。

○こどもは すなで なにを こしらへてゐますか。(第十一課の掛圖によつて)

△やまを こしらへてゐます。

△その他。

2 提示

○これは どなたの ほんですか。(本を示しながら)

△それは わたくしの ほんです。(二人一人に)

○これも あなたのですか。

△いいえ、さうではありません。□さ んのです。

○これは なんの ほんですか。(ハナシコトバの本を示しながら自問)  
にっぽんごの ほんです。(自答)

(二) 問答

1 復習

○わたくしは はくぼくで なにをか いてゐますか。(字を板書しながら)

△(あなたは はくぼくで) じを かいて みます。

○こんどは、わたくしは はくぼくで なにを かいてゐますか。(山の略畫を



○これは なんの ほんですか。  
 △にっぽんごの ほんです。  
 ○これも にっぽんごの ほんですか。  
 (他の「ハナシヨトバ」の本を示しながら)  
 △はい、さうです。  
 ○それでは、これも にっぽんごの ほんですか。(支那語の本を示しながら自問)  
 いゝえ、さうではありません、しなごの ほんです。(自答)  
 ○これも にっぽんごの ほんですか。  
 △いゝえ、さうではありません、しなごの ほんです。  
 ○これは なんの ほんですか。(櫻の花を掛圖で示しながら自問)  
 わかりません。(自答)  
 ○これは なんの ほんですか。

△わかりません。  
 ○これは なんの ほんですか。(牡丹の花を掛圖または略畫の板書で示しながら)  
 △わかりません。  
 ○これは なんの ほんですか。(櫻の花を掛圖で示しながら自問)  
 さくらのはなです。(自答)  
 (注意) この時これは さくらのはなの ほんです。といはせてもよい。  
 ○これは なんの ほんですか。  
 ○さくらのはなです。  
 櫻の花の略畫を板書する。  
 ○これは なんの ほんですか。(牡丹の花を掛圖または略畫の板書で示しながら)  
 △わかりません。

○ぼたんのはなです。  
 ○これは なんの ほんですか。(梅の花の掛圖または略畫を示しながら)  
 △わかりません。  
 ○これは うめのはなです。  
 ○これは ぼたんのはなの ほんですか、さくらのはなの ほんですか。(牡丹の花を掛圖または略畫で示しながら)  
 △ぼたんのはなの ほんです。  
 ○それでは、これは さくらのはなの ほんですか、ぼたんのはなの ほんですか。  
 (櫻の花を掛圖で示しながら)  
 △さくらのはなの ほんです。  
 ○これは なんの ほんですか。(富士山を掛圖または略畫で示しながら)  
 △わかりません。  
 ○これは ふじさんの ほんです。

○これは なんの ほんですか。(富士山の繪を示して)  
 △ふじさんの ほんです。  
 ○その他。  
 ○黒板に  
 コレワ ナンノ エデスカ  
 ワカリマセン  
 コレワ サクラノハナデス  
 と書き、先づ符號によつて、語調に注意し、はつきりした發音で數回範讀し、次に學習者の一人々々に讀ませる。  
 更に本の第十二頁を開かせ、繪畫と符號を見させて、前に準じて範讀後、一人々々に讀ませる。  
 3 總括  
 ○これは なんの ほんですか。  
 △にっぽんごの ほんです。



- これは なんの ゑですか。
- △ふじさんの ゑです。
- これは なんの ゑですか。
- △ぼたんの はなです。
- これは なんの ゑですか。
- さくらの はなです。
- △その他。

### 三 備 考

- (一) シメノハナ(梅の花)の「シ」は母音の附かない m 音であるから、「シメ」は *mine* と發音する。
- (二) エはアクセントによつて「エ(繪)・エ(柄)の別が生ずるから注意を要する。
- (三) 實物の代りに繪畫を用ひてする時には、本課の如く「○○は○○のゑですか。」といふべきところを「○○は○○ですか。」といつて

- もさしつかへない。
- (四) 「わかりません」の語は、教室用語として、必要に応じて隨時修得させておくべきである。
- (五) 本課は櫻の花に關する教材であるが、本課から第二十一課までは春夏秋冬の四季に關する一聯の教材であるから、十分相互の連絡に注意することが必要である。
- (六) 卷頭の口繪は青森縣の弘前城の櫻である。本課及び次課を教授する時は、これをも利用するとよい。

## 第十三課 (第十三頁)

### 一 教 材

サクラノハナワ ハル サキマス。  
 ハルワ イロイロナ ハナガ サキマス。  
 構文 ○○ワ ○○ ○○マス。

語彙 ハル サキ(マス) (ワ) イロイロナ

[教具] 紙小・掛圖等。

### 二 指 導

#### (一) 要 領

1 本課は、春に關する教材で、「○○は□」  
 「○○ます」の如き動詞の現在形によつて

習慣的行爲を表はす構文と、「□は△△  
 ○○が○○ます」の如き「は」の意の「は」を  
 含む構文によつて「はる」「さき(ます)」「いろ



いろな等の語彙を修得させるのが主眼である。

2 本課に於ては、新語はるに關聯して「なつ」「あき」「ふゆ」「いつ」等を補充し、更に「もの」の語彙をも補充することとした。

(二) 問 答

1 復習

- これは なんの ゑですか。
- △ふじさんの ゑです。
- これは なんの ゑですか。
- △ぼたんのはなの ゑです。
- これは なんの ゑですか。
- △さくらの はなの ゑです。
- これは なんの ゑですか。(菊の花の如き未知の花を板書して)
- △わかりません。

○△△です。  
△その他。

2 提示

- 七曜表によつて
- いちぐわつ にぐわつ さんぐわつ しぐわつ ごぐわつ ろくぐわつ しちぐわつ はちぐわつ くぐわつ じふぐわつ
- じふいちぐわつ じふにぐわつ。(反復數回)
- △いちぐわつ にぐわつ さんぐわつ しぐわつ ごぐわつ ろくぐわつ しちぐわつ はちぐわつ くぐわつ じふぐわつ じふいちぐわつ じふにぐわつ。
- 先づ一月から十二月までを板書し、次にそれを春夏・秋冬に分つて、
- さんぐわつと しぐわつと ごぐわつははるです。
- ろくぐわつと しちぐわつと はちぐわ

つは なつです。  
くぐわつと じふぐわつと じふいちぐわ

つは あきです。  
じふにぐわつと いちぐわつと にぐわ

つは ふゆです。(反復數回)  
○さんぐわつと しぐわつと ごぐわつは

はるですか。(自問)  
はい、さうです。(自答)

○さんぐわつと しぐわつと ごぐわつは

はるですか、なつですか。(自問)  
はるです。(自答)

同様の方法により、夏・秋冬について提示する。

○さんぐわつと しぐわつと ごぐわつははるですか。

△はい、さうです。  
ろくぐわつと しちぐわつと はちぐわ

つは なつですか。  
△はい、さうです。

○くぐわつと じふぐわつと じふいちぐわつは なつですか。

△はい、さうです。  
じふいちぐわつと いちぐわつと にぐわ



なつの つぎは あきです。  
 ○はるの つぎは なつですか。  
 △はい、さうです。  
 ○なつの つぎは あきですか。  
 △はい、さうです。  
 ○あきの つぎは ふゆです。  
 △はい、さうです。  
 ○あきの つぎは はるです。  
 △はい、さうです。  
 ○ふゆの つぎは はるですか。  
 △はい、さうです。  
 ○ふゆの つぎは はるですか、なつで  
 すか。  
 △はるです。  
 ○みなさんは がくかうへ きます。  
 せんせいも がくかうへ きます。  
 ○みなさんは がくかうへ きますか。

△はい、きます。  
 ○みなさんは どこへ きますか。  
 △がくかうへ きます。  
 ○せんせいも がくかうへ きますか。  
 △はい、きます。  
 ○さくらの はなは はる さきます。(咲  
 いてゐる櫻の花を掛圖で示しながら)  
 ○さくらの はなは はる さきますか。  
 △はい、はる さきます。  
 ○さくらの はなは いつ さきますか。  
 △はる さきます。  
 ○つくゑの うへに ほんが あります。  
 かみも えんぴつも あります。  
 つくゑの うへに いろいろな も  
 の あります。  
 ○つくゑの うへに いろいろな も  
 の

が ありますか。  
 △はい、(いろいろな ものが) あります。  
 ○この へやに いろいろな ものが  
 あります。  
 つくゑも あります。いすも ありま  
 す。こくばんも あります。  
 はこも あります。ほんも あります。  
 △○その他。  
 ○はるには さくらの はなが さきます。  
 はるは さくらの はなが さきます。  
 (櫻の花を掛圖で示しながら)  
 ○はるには ほたんのはなも さきます。  
 はるは ほたんのはなも さきます。  
 (牡丹の花を繪または略畫の板書で示し  
 ながら)  
 ○はるには うめのはなも さきます。  
 はるは うめのはなも さきます。

等によつて、兩者の意味がほとんど同じであ  
 ることを理解させる。  
 ○はるは さくらの はなが さきますか。  
 △はい、さきます。  
 ○はるは ほたんのはなも さきますか。  
 △はい、さきます。  
 ○はるは うめのはなも さきますか。  
 △はい、さきます。  
 ○はるは さくらの はなも ほたんのは  
 なも うめのはなも さきますか。  
 △はい、さきます。  
 ○はるは いろいろな はなが さきま  
 すか。  
 △はい、さきます。  
 ○さくらの はなは いつ さきますか。  
 △はる さきます。  
 ○ほたんのはなは いつ さきますか。



△はる さきます。

△○その他。

○黑板に

サクラノハナワ ハル サキマス

ハルワ イロイロナ ハナガ サキマ

ス

と書き、符號によつて、語調に注意し、はつきりした發音で數回範讀し、次に學習者の一人々々に讀ませる。

更に本の第十三頁を開かせ、繪畫と符號を見させて、前に準じて範讀後、一人々々に讀ませる。

### 三 備 考

○はるは さくらのはなが さきますか。

△はい、さきます。

○はるは ぼたんのはなも さきますか。

△はい、さきます。

○はるは うめのはなも さきますか。

△はい、さきます。

○はるは いろいろな はなが さきますか。

すか。

△はい、(いろいろな はなが) さきます。

△○その他。

### 3 總括

○さくらのはなは はる さきますか。

△はい、はる さきます。

○さくらのはなは いつ さきますか。

△はる さきます。

(二) ハルはアクセントにより、ハル(春)ハル

(張)貼となり、サクはアクセントにより、サ

ク(咲)サク(裂)となり、ハナはアクセントに

より、ハナ(花)ハナ(端)ハナ(鼻)となるから注

意すべきである。

(三) 本課に於ては「はる」に關聯して、次課以

下第十七課までの四季教材の伏線とし

て、「なつ」「あき」「ふゆ」の語を補充したが、か

かる語は、生活の折々に即して教授して

おくべきである。



第十四課 (第十四頁)

一 教材

ナツワ アツイ トキデス。  
 カオヤ カラダカラ アセガ デマス。  
 構文 ○○ヤ ○○カラ ○○ガ ○○マス。  
 語彙 ナツ アツイ トキ カオ ヤ(助詞) カラダ カラ  
 アセ

[教具]

二 指導

(一) 要領

1 本課は、夏に関する教材で、新構文○○  
 や○○から○○が○○ます。によつて、な

つ「あつい」「とき」「かほ<sup>オ</sup>」「や」「からだ」から「あ  
 せ」等の語彙を修得させるのが主眼であ  
 る。

- 2 本課に於ては、でますに關聯して、だ  
 してゐますを補充することとした。
- 3 本課に於ては、類似した物事を大概に  
 いふときに用ひる竝立助詞○○や○○  
 の用法を十分練習させるとともに、既習  
 の上の卷第八課及び第二十五課の○○  
 と○○並びに同第二十六課の○○もと  
 聯關させて教授することが必要である。
- 4 動作の起るもとを示す○○からの用  
 法を十分練習させる必要がある。

(二) 問答

- 1 復習  
 ○これは なんの ゑですか。  
 △さくらの はなです。  
 ○さくらの はなは はる さきますか。  
 △はい、はる さきます。

- さくらの はなは いつ さきますか。  
 △はる さきます。
- はるは さくらの はなも うめの はな  
 も ぼたんの はなも さきますか。  
 △はい、さきます。
- はるは いろいろな はなが さきま  
 すか。  
 △はい、いろいろな はなが さきま  
 します。
- その他。
- 2 提示  
 △○は ちぐわつは あつい ときです。(第  
 十四課の掛圖を示しながら)  
 △○は ちぐわつは さむい ときです。  
 (第十六課の掛圖を示しながら)  
 ○は ちぐわつは あつい ときですか、  
 さむい ときですか。  
 △(は ちぐわつは) あつい ときです。



○はちぐわつは なつですか。

△はい、さうです。

○なつは あつい ときですか、さむい ときですか。

△あつい ときです。

○じふにぐわつは さむい ときですか、あつい ときですか。

△さむい ときです。

○じふにぐわつは ふゆですか。

△はい、さうです。

○ふゆは さむい ときですか、あつい ときですか。

△さむい ときです。

○その他。

○こゝに えんぴつと はくぼくが あります。(教卓上に鉛筆と白墨を置いて)

○こゝに なにが ありますか。(自問)

えんぴつと はくぼくが あります。

(自答)

○かみも ありますか。

△はい、(かみも) あります。

○かほには めや みゝが あります。はなも くちも あります。

○かほには めや みゝが ありますか。

△はい、(めや みゝが) あります。

○かほには はなも くちも ありますか。

△はい、(はなも くちも) あります。

○からだには あたまや てが あります。

△はい、(あたまや てが) あります。

○からだには あしも ありますか。

△はい、(あしも) あります。

○わたくしは つくゑから かみを だしてゐます。(實演)

○わたくしは つくゑから かみを だしてゐますか。

△はい、だしてゐます。

○わたくしは つくゑから えんぴつを だしてゐますか。(實演)

△はい、だしてゐます。

○わたくしは、つくゑから かみや えんぴつを だしてゐますか。(實演)

△はい、だしてゐます。

○このひとを ごらん下さい。(掛圖によつて)

かほから あせが でてゐます。からだからも あせが でてゐます。

これは なつです。

なつは あつい ときです。

○かほや からだから あせが できます。

○なつは かほから あせが できます。

△はい、(かほから あせが) できます。

○からだからも あせが できますか。

△はい、(かほや からだから あせが) できます。

○なつは かほや からだから なにが できますか。

△(かほや からだから) あせが できます。

○てや あしからも あせが できますか。

△はい、(てや あしからも あせが) できます。



△○その他。

○黒板に

ナツワ アツイ トキデス

カオヤ カラダカラ アセガ デマス

と書き、符號によつて、語調に注意し、はつきりした發音で數回範讀し、次に學習者の一人々々に讀ませる。

更に本の第十四頁を開かせ、繪畫と符號を見させて、前に準じて範讀後、一人々々に讀ませる。

3 總括

○なつは あつい ときですか。

△はい、あつい ときです。

○なつは どんな ときですか。

△あつい ときです。

○かほや からだから あせが できますか。

△はい、(かほや からだから あせが) できます。

○てや あしからも あせが できますか。  
△はい、(てや あしからも あせが) できます。

○なつは かほや からだから なにが できますか。

△あせが できます。

△○その他。

### 三 備考

(一) トキがトチトケドキに、カラダカラが、カラダガラに誤られ易いから、正しい音をしばしば、聽馴れさせる等、特に注意して教授することが肝要である。

(二) ものを數へる時、全部を擧げる場合には、とを以てし、その中のいくつかを擧げるときには、やを用ひる。

## 第十五課 (第十五頁)

### 一 教材

イマワ アキデス。

クサヤ キノハガ キイロク ナリマシタ。

構文 ○○ヤ ○○ガ ○○ ナリマシタ。

語彙 アキ クサ キノハ キイロク ナリ(マシタ)

〔教具〕 黄色な草と木の葉、掛圖等。

### 二 指導

#### (一) 要領

1 本課は、秋に關する教材で、○○ヤ○○が○○なりました。といふ構文を授けるとともに、「あき」「くさ」「きは」「きいろく」「なり(ました)」等の語彙を修得させるの

が主眼である。

2 本課に於ては、「きいろく」に關聯して、「きいろい」「みどり」等の語彙を補充することとした。

3 本課は「なりました」が形容詞の連用形をとるときの新しい構文であるから、類



例によつて練習を徹底させることが肝要である。

(二) 問 答

1 復習

- なつは<sup>ワ</sup> あつい ときですか、さむいときですか。
- △あつい ときです。
- なつは どんな ときですか。
- △あつい ときです。
- かほ<sup>オ</sup>や からだから あせが できますか。
- △はい、(かほや からだから あせが) できます。
- かほ<sup>オ</sup>や からだから なにが できますか。
- △あせが できます。

△○その他

2 提示

- これは くさです。
- これは きのはです。(實物または掛圖で、草または木の葉をそれ／＼示しながら)
- これは くさですか、きのはですか。
- △くさです。
- これも くさですか。(木の葉を示しながら)
- △いいえ、さうではありません、きのはです。
- これは しろい はくぼくです。(實物を示して)
- これは あかい はくぼくです。
- これは きいろい はくぼくです。
- これは あかい はくぼくですか、しろい

- ろい はくぼくですか。
- △あかい はくぼくです。
- これは きいろい はくぼくですか、あかい はくぼくですか。
- △きいろい はくぼくです。
- これは きいろい くさですか、あかい くさですか。
- △きいろい くさです。
- これは きいろい きのはですか、あかい きのはですか。
- △きいろい きのはです。
- この <sup>エ</sup>を <sup>ユ</sup>を ごらんさい。
- いまは <sup>ジュ</sup>い <sup>チ</sup>ち <sup>ガ</sup>ぐ <sup>ワ</sup>わつです。
- いまは あきです。
- くさが きいろく なってゐます。
- なつには くさは みどりです。
- あきには くさは きいろく なります。

- いまは あきです。
- (それですから) くさが きいろく なってゐます。
- きのはも きいろく なってゐますか。
- △はい、きいろく なってゐます。
- いまは あきです。
- くさや きのはが きいろく なってゐますか。
- △はい、(くさや きのはが) きいろく なってゐます。
- △○いまは あきです。
- くさが きいろく なりました。
- いまは あきです。
- くさが きいろく なりましたか。
- △はい、きいろく なりましたか。
- △はい、きいろく なりました。



○くさや きのはが きいろく なりま  
したか。

△はい、きいろく になりました。

△○その他。

○黒板に

イマワ アキデス

クサヤ キノハガ キイロク ナリマ

シタ

と書き、符號によつて、語調に注意し、はつ  
きりした發音で數回範讀し、次に一人一  
人に讀ませる。

更に本の第十五頁を開かせ、繪畫と符號  
を見させて、前に準じて範讀後、一人々々  
に讀ませる。

3 總括

○いまは あきですか、なつですか。

△いまは あきです。

### 三 備考

○あきは くさや きのはが きいろく  
なりますか。

△はい、きいろく なります。

○いまは あきです。くさや きのはが

きいろく になりましたか。

△はい、きいろく になりました。

△○その他。

(一) アキがアチ・アケに、キノハがチノハ・ケ

ノハに、キイロクがチイロク・ケイロク等

に誤られ易いから、正しい音をしぼく

聽馴れさせる等、特に注意して教授する

ことが肝要である。

(二) 「になりました。には、次の課に見えるやう

に名詞をとる場合があり、また、にで終る

副詞をとる場合がある。

## 第十六課 (第十六頁)

### 一 教材

フユニ ナリマシタ。

マイニチ サムイ カゼガ フキマス。

構文 ○○ニ ナリマシタ。

語彙 フユ (ニ)助詞) マイニチ カゼ フキ(マス)

[教具] 掛圖。

### 二 指導

#### (一) 要領

1 本課は、冬に關する教材で、「○○になり  
ました。」を授けるとともに、「ふゆニ」「まいに  
ち」「かぜ」「ふき(ます)」等の語彙を修得させる

のが主眼である。  
2 前課の「になりました。」は、形容詞の連用形  
をとる場合であるが、本課の「になりました」  
は、「あきになりました。」の如く、名詞をと  
る場合である。



(二) 問 答

1 復習

- いまは あきですか、なつですか。
- △いまは あきです。
- あきは くさや きのはが きいろく なりますか。
- △はい、きいろく なります。
- この 忍エオを ごらんなさい。(掛圖を示して)
- この くさは きいろく なりましたか、あかく なりましたか。
- △きいろく なりました。
- その他。

2 提示

時計または時計の文字盤模型で、

- いまは ○○じです。

○○じに なりました。(時計を一時間進めて)

○○じに なりました。(更に時計を一時間進めて)

○○じに なりました。(更に時計を一時間進めて)

○いまは なんじですか。

△○○じです。

○なんじに なりましたか。

△○○じに なりました。

○さんぐわつガには はるに なります。ろくぐわつには なつに なります。

くぐわつには あきに なります。じふにぐわつには はるに なります。さんぐわつには はるに なりますか。

△はい、はるに なります。

○ろくぐわつには なつに なりますか。

△はい、なつに なります。

○くぐわつには あきに なりますか。

△はい、あきに なります。

○じふにぐわつには ふゆに なりますか。

△はい、ふゆに なります。

○なつは あつツい ときです。

△なつは あつい ときです。

○ふゆは さむい ときです。

△ふゆは さむい ときです。

○みなさんは まいにち がくかうへ きますか。

△みなさんは まいにち がくかうへ きます。



きます。(自答)

△○その他。

○黒板に

フユニ ナリマシタ

マイニチ サムイ カゼガ フキマス

と書き、符號によつて、語調に注意し、はつきりした發音で數回範讀し、次に學習者の一人々々に讀ませる。

更に本の第十六頁を開かせ、繪畫と符號を見させて、前に準じて範讀後、一人々々に讀ませる。

3 總括

○はるは さくらのはなが さきますか。

(第十三課の掛圖を示しながら)

△はい、(さくらのはなが) さきます。

○はるは いろいろな はなが さきますか。

すか。

△はい。(いろいろな はなが) さきます。

○いまは なつです。(第十四課の掛圖を示しながら)

なつは あつい ときですか。

△はい、さうです。

○かほや からだから あせが できますか。

△はい、(かほや からだから あせが) できます。

○いまは あきです。(第十五課の掛圖を示しながら)

くさや きのはが きいろく なりましたか。

△はい、(くさや きのはが) きいろく なりました。

○ふゆに なりました。(第十六課の掛圖を示しながら)

を

三 備 考

まいにち さむい かぜが ふきます。

○ふゆは さむい かぜが ふきますか。

△はい、ふきます。

△○その他。

カゼがカゼに、フキマスがフチマス・フケマス等に誤られ易いから、正しい音をしばしば聽馴れさせる等、特に注意して教へることが肝要である。



第十七課 (第十七頁)

一 教材

イチネンニワ ハル ナツ アキ フユガ アリマス。  
 ナンガツカラ ナンガツマデオ ハルト イイマスカ。  
 構文 ○○ニワ ○○○○○○○ガ アリマス。  
 ○○カラ ○○マデオ ○○ト イイマス。  
 語彙 イチネン (ニワ) マデ (ト) (助詞) イイマス)

〔教具〕 紙・掛圖等。

二 指導

(一) 要領

1 本課は、四季に関する教材で、新構文、○  
 ○には○<sup>フ</sup>○○□△△××があります。主

語の並列と、○○から○○までを○<sup>+</sup>と  
 いひます。を授けるとともに、「いちねん」  
 (には(と)「いひます」等の語彙を修得させ  
 るのが主眼である。

2 本課に於ては、「なんかけつ」<sup>フ</sup>「じふ」<sup>フ</sup>にかけ  
 つの語彙を補充することとした。

3 本課に於ては、主語の並列は「なつあ  
 きふゆが」と、起點と終點を示す「○○から  
 ○○まで」と、「○○といひます」との用法に  
 十分習熟させることが肝要である。

4 本課は第十三課の春、第十四課の夏、第  
 十五課の秋、第十六課の冬に関する教材  
 の後を受けて、これを総合した春夏秋冬  
 の四季に関する教材である。よつてこ  
 こで關係各課の總復習を試みることに  
 必要である。

(二) 問答

1 復習

第十三課の掛圖によつて、  
 ○さくらのなはいつ さきますか。

○はる さきます。  
 ○はるは さくらのなはなだけ さきます  
 か。  
 △いゝえ、いろいろな はなが さきま  
 す。  
 △その他。  
 第十四課の掛圖によつて、  
 ○なつは どんな ときですか。  
 △あつい ときです。  
 ○かほや からだから なにが できま  
 すか。  
 △あせが できます。  
 △その他。  
 第十五課の掛圖によつて、  
 ○いまは あきです。  
 ○あきには くさが どんなに なりま  
 すか。



△(くさが) きいろく なります。  
○きのはも きいろく なりますか。  
△はい、きいろく なります。

第十六課の掛圖によつて、

○ふゆに なりました。

まいにち さむい かぜが ふきます。

○いまは ふゆですか、なつですか。

△ふゆです。

○まいにち どんな かぜが ふきます

か。

△さむい かぜが ふきます。

△○その他。

2 提示

七曜表によつて、

○いちねんには <sup>ジュイ</sup>じふにかげつ ありま

す。

△○いちぐわつ にぐわつ さんぐわつ

しぐわつ ごぐわつ ろくぐわつ し  
ちぐわつ はちぐわつ くぐわつ じ  
ふぐわつ じふいちぐわつ じふにぐわ  
つ。(反復數回)

先づ一月から十二月までを板書し次に

それを春夏秋冬に分つて、

○さんぐわつと しぐわつと ごぐわつ

は はるです。

ろくぐわつと しちぐわつと はちぐわ

つは なつです。

くぐわつと じふぐわつと じふいち

ぐわつは あきです。

じふにぐわつと いちぐわつと にぐわ

つは ふゆです。

いちねんには じふにかげつ ありま

す。

○いちねんには なんかげつ あります

か。

△じふにかげつ あります。

○いちねんには はる なつ あき ふ

ゆが あります。

○いちねんには なんと なが あり

ますか。

△はる なつ あき ふゆが あります。

○さん、いちから ごまで かぞへ

てごらん下さい。

△いちに さん しご。

(○はい、よく できました。)

○それでは、○○さん、いちから <sup>ジュイ</sup>じふ

まで かぞへてごらん下さい。

△いちに さん しごろく しち

はちく じふ。

(○はい、よく できました。)

○さん、いまは なんぐわつですか。

△○○ぐわつです。

○それでは、せんげつは なんぐわつで

したか。

△○○ぐわつでした。

○それでは、らいげつは なんぐわつで

すか。

△○○ぐわつです。

○さんぐわつ しぐわつ ごぐわつは

はるです。

さんぐわつ しぐわつ ごぐわつを

はると いひます。

○さんぐわつ しぐわつ ごぐわつを

なんと いひますか。

△はると いひます。

○なんぐわつから なんぐわつまでを

はると いひますか。(自問)

さんぐわつから ごぐわつまでを は



ると いひます。(自答)

○なんぐわつから なんぐわつまでを

はると いひますか。

△さんぐわつから ごぐわつまでを は

ると いひます。

○ろくぐわつから はちぐわつまでを

なつと いひます。

○なんぐわつから なんぐわつまでを

なつと いひますか。

△ろくぐわつから はちぐわつまでを

なつと いひます。

○くぐわつから じふいちぐわつまでを

あきと いひます。

○なんぐわつから なんぐわつまでを

あきと いひますか。

△くぐわつから じふいちぐわつまでを

あきと いひます。

○じふにぐわつから にぐわつまでを

ふゆと いひます。

○なんぐわつから なんぐわつまでを

ふゆと いひますか。

△じふにぐわつから にぐわつまでを

ふゆと いひます。

△○その他。

○黒板に

イチネンニワ ハル ナツ アキ フ

ユガ アリマス

ナンガツカラ ナンガツマデオ ハル

ト イイマスカ

と書き符號によつて、語調に注意し、はつきりした發音で數回範讀し、次に學習者の一人々々に讀ませる。

更に本の第十七頁を開かせ、繪畫と符號を見させて、前に準じて範讀後、一人々々

に讀ませる。

3 總括

○いちねんには なんかげつ あります

か。

△じふにかけつ あります。

○はるには どんな はなが さきます

か。

△さくらのはなが さきます。

○はるの つぎは なんですか。

△なつです。

○なつは、かほ<sup>+</sup>や からだから なにが

ですか。

△あせが できます。

○なつの つぎには なにが きますか。

△あきが きます。

○あきには くさや きのはが どんな

になりますか。

△きいろく あります。

○あきの つぎには なにが きますか。

△ふゆが きます。

○ふゆには どんな かぜが ふきます

か。

△さむい かぜが ふきます。

△○その他。

○いちねんには なんかげつ あります

か。

△じふにかけつ あります。

○いちねんには なんと なにが あり

ますか。

△はる なつ あき ふゆが あります。

○なんぐわつから なんぐわつまでを

はると いひますか。

△さんぐわつから ごぐわつまでを は

ると いひます。



○それでは、なんぐわつから なんぐわ

つまでを なつと いひますか。

△ろくぐわつから はちぐわつまでを

なつと いひます。

○なんぐわつから なんぐわつまでを

あきと いひますか。

△くぐわつから じふいちぐわつまでを

あきと いひます。

○それでは、なんぐわつから なんぐわ

つまでを ふゆと いひますか。

△じふにぐわつから にぐわつまでを

ふゆと いひます。

△○その他。

ど、十分注意して教へる必要がある。

### 三 備考

ナンガツをナンガズに、ハルトを、ハルドに誤り易いから、比較して練習させるな

## 第十八課 (第十八頁)

### 一 教材

スズキサン、アナタノ ミキノカタワ ワタナベサンデスカ。

イーエ、ワタクシノ ミギワ タカハシサンデス。

構文

語彙 スズキサン ミギ ワタナベサン タカハシサン

符號 べ

〔教具〕 掛圖等。

### 二 指導

#### (一) 要領

1 本課は、「右」「左」に關する教材で、既習の

構文によつて、「すゞきさん」「わたなべさん」「たかはしさん」「みぎ」等の語彙を修得



させるのが主眼である。

2 本課に於ては、「ひだり」「どちら等の語彙を補充することとした。

3 本課は「みぎ」「ひだり」に関する教材であるが、本課から第二十課までは、いづれも「みぎ」「ひだり」となり、「そば等の位置に關する一聯の教材であるから、相互の連絡に注意することが肝要である。

4 先づ肯定的な答を要求する問答から入り、後本課の「い、え、わたくしのみぎはたかはしさんです」の如き否定的な答を要求する問答に進むがよい。

5 「みぎ」「ひだり」は、向かつていふ時とさうでない時とで異なるから、新語「みぎ」「ひだり」を授けるには、先づ指導者が學習者と同じ向きに立つて教へることから始めるがよい。

(二) 問 答

1 復習

○いちねんには<sup>ワ</sup> はる なつ あき ふゆが ありますか。

△はい、あります。

○なんぐわつ<sup>ガ</sup> からはる なんぐわつ<sup>ヲ</sup>までを

はると いひますか。

△さんぐわつ<sup>ヲ</sup>から ごぐわつ<sup>ヲ</sup>までを はると いひます。

○なんぐわつ<sup>ヲ</sup>から なんぐわつ<sup>ヲ</sup>までを

なつと いひますか。

△ろくぐわつ<sup>ヲ</sup>から はちぐわつ<sup>ヲ</sup>までを

なつと いひます。

○なんぐわつ<sup>ヲ</sup>から なんぐわつ<sup>ヲ</sup>までを

あきと いひますか。

△くぐわつ<sup>ヲ</sup>から じふいちぐわつ<sup>ヲ</sup>までを

あきといひます。

○なんぐわつ<sup>ヲ</sup>から なんぐわつ<sup>ヲ</sup>までを

ふゆと いひますか。

△じふにぐわつ<sup>ヲ</sup>から にぐわつ<sup>ヲ</sup>までを

ふゆと いひます。

△その他。

○わたくしの まへ<sup>ニ</sup> つくゑ<sup>ヲ</sup>が あり

ますか。

△はい、あります。

○わたくしの うしろに なにが あり

ますか。

△こくばんが あります。

○わたくしの まへに さんが ゐ<sup>イ</sup>

ますか。

△はい、ゐます。

○わたくしの うしろに だれが ゐま

すか。

△だれも ゐません。

△その他。

2 提示

○これは なんですか。(手を高く擧げな

がら)

△てです。

○これも てですか。(足を指し示しなが

ら)

△い、え、さう<sup>イ</sup>ではありません、あしで

す。

指導者は學習者と同じ向きに向き直

つて

○これは みぎの てです。(右の手を高

く擧げながら)

○これは ひだりの てです。

○これは みぎの あしです。

○これは ひだりの あしです。



○これは みぎの てですか。

△はい、さうです。

○これは みぎの てですか、ひだりの てですか。

△みぎの てです。

○これは どちらの てですか。

△ひだりの てです。

○これは ひだりの あしですか、みぎの あしですか。(左の足を指し示しながら)

△ひだりの あしです。

○これは ひだりの あしですか。(右の足を指し示しながら)

△いえ、さうではありません、みぎの あしです。

次に指導者は一學習者の右側に立つて、このとき學習者と同じ向きに立つこと

は無論である。

○せんせい<sup>セ</sup>は  さんの みぎに るます。

△ さんは せんせいの ひだりに るます。

○せんせいは  さんの みぎに るますか。

△はい、みぎに るます。

○せんせいは  さんの みぎに るますか、ひだりに るますか。

△みぎに るます。

○せんせいの ひだりの かたは  さんです。

○せんせいの ひだりの かたは  さんですか。

△はい、さうです。

○ さん、あなたの みぎの かたは せんせいですか。

△はい、さうです。

○ さん、あなたの みぎの かたは いえ、わたくしの みぎの かたは せんせいです。(自問)

○ さん、あなたの みぎの かたは  さん、あなたの みぎの かたは  さんですか。

△いえ、わたくしの みぎの かたは せんせいです。

同様にして、他の學習者についても右左の問答をする。

△その他。

○黒板に スズキサン アナタノ ミギノ カタ

ワ ワタナベサンデスカ

イーエ ワタクシノ ミギワ タカハシサンデス

と書き、先づ符號によつて、語調に注意し、はつきりした發音で數回範讀し、次に學習者の一人々々に讀ませる。

更に本の第十八頁を開かせ、繪畫と符號を見させて、前に準じて範讀後、一人々々に讀ませる。

3 總括

○ さん、あなたの みぎの かたは  さんですか。

△はい、さうです。

○ さん、あなたの みぎの かたは どなたですか。(自問)

わたくしの みぎは  さんです。(自答)



- さん、あなたの ひだりの かた
- は ○○さんですか。
- △いゝえ、わたくしの ひだりの かた
- は △△さんです。
- すゞきさん、あなたの みぎの かた
- は たかはしさんですか。
- △はい、さうです。
- すゞきさん、あなたの みぎの かた
- は わたなべさんですか。
- △いゝえ、わたくしの みぎの かたは
- たかはしさんです。
- △○その他。

### 三 備考

(一) スズキサンをスズチサンに、カタをカダガダに、タカハシサンをタカハジサン。

- (二) タガハジサンに、ドチラを、ドチラに、ヒダリをシダリに誤り易いから注意を要する。
- (三) ミギのギを誤り易いから、正しい音をしばしば聴馴れさせる等特別の工夫が肝要である。
- (四) ミギノ カタワ のアクセントは、續けていふときには、ミギノカタワとなる。教材は、上の卷第三十二課の「うへした」、第三十三課の「まへうしろ及び中の卷第二十九課から第三十一課までの東西南北に關する教材と連絡させることが必要である。
- (五) 本課の繪畫は、向かつて左端の子供が、中央にゐる鈴木といふ子供に、右端の子供の名を尋ねてゐるところである。

### 第十九課 (第十九頁)

#### 一 教材

スズキサンワ ワタクシノ トナリニ イマス。  
 サイトーサンモ トナリニ イマス。

構文

語彙 トナリ サイトーサン

〔教具〕 掛圖等。

#### 二 指導

##### (一) 要領

1 本課は、前課と同じく位置隣に關する教材で、既習の構文によつて、「となり」「さいとうさん」等の語彙を修得させるのが

2 新語となりを授けるには、指導者はそれぞれ學習者の「みぎ」「ひだり」「まへ」「うしろ」に立つて、そのいづれも「となり」である



ことを示すがよい。

(二) 問 答

1 復習

○□さん、あなたの みぎの かたは  
○○さんですか。

△はい、さうです。

○□さん、あなたの みぎの かたは  
どなたですか。

△(わたくしの みぎの かたは) ○○さ  
んです。

○□さん、あなたの ひだりの かた

は ○○さんですか。

△いいえ、(わたくしの ひだりの かた

は) △△さんです。

○△△さん、あなたの まへの かたは  
どなたですか。

△(わたくしの まへの かたは) ××さ  
んです。

○××さん、あなたの うしろの かた  
は どなたですか。

△(わたくしの うしろの かたは) △△  
さんです。

△その他。

2 提示

指導者は學習者の右に立つて、  
○わたくしは □さんの みぎに  
ります。

次に學習者の左に立つて、

○わたくしは □さんの ひだりに  
ります。

同様にして「前」「後」を提示する。

學習者の右に立つて、  
○わたくしは □さんの となりに

ります。

○わたくしは □さんの となりに  
りますか。

△はい、(あなたは) □さんの となり  
に ります。

次に學習者の左に立つて、

○わたくしは □さんの となりに  
ります。

○わたくしは □さんの となりに  
りますか。

△はい、(あなたは) □さんの となり  
に ります。

次に學習者の前に立つて、

○わたくしは □さんの となりに  
ります。

○わたくしは □さんの となりに  
りますか。

△はい、(あなたは) □さんの となり  
に ります。

次に學習者の後に立つて、

○わたくしは □さんの となりに  
ります。

○わたくしは □さんの となりに  
りますか。

△はい、(あなたは) □さんの となり  
に ります。

他の學習者についても同様な方法で問  
答をする。

○○○さんは □さんの となりに  
ります。(□さんの左隣の○○さんを  
指し示して)

○△△さんも □さんの となりに  
ります。(□さんの右隣の△△さんを  
指し示して)



○△○さんは あなたの となりに いますか。

△はい、○○さんは わたくしの となりに います。

○△△さんも あなたの となりに いますか。

△はい、△△さんも わたくしの となりに います。

□さんの隣にゐない、離れた××さんを指して、

○××さんは □さんの となりに いますか。

△いえ、××さんは □さんの となりに いません。

他の學習者についても同様な方法で問答をする。

○黒板に

スズキサンワ ワタクシノ トナリニ

イマス

サイトーサンモ トナリニ イマス

と書き、先づ符號によつて、語調に注意し、はつきりした發音で數回範讀し、次に學習者の一人々々に讀ませる。

更に本の第十九頁を開かせ、繪畫と符號を見させて、前に準じて範讀後、一人々々に讀ませる。

3 總括

○△○さんは あなたの となりに いますか。

△はい、○○さんは わたくしの となりに います。

○△△さんも あなたの となりに いますか。

△はい、△△さんも わたくしの となりに います。

三 備 考

りに います。

○□さんは あなたの となりに いますか。

△はい、□さんは わたくしの となりに います。

○××さんも となりに いますか。

△はい、××さんも となりに います。△○その他。

(一) スズキサンをスズチサンに、トナリをドナリに、サイトーサンをサイトサン、サイトーサンに誤り易いから注意を要する。

(二) 本課の繪畫は、向かつて右が鈴木といふ女の子で、同じく左が齋藤といふ女の子である。



第二十課 (第二十頁)

一 教材

ワタクシノ ウチワ ユーピンキョクノ トナリデス。

ワタナベサンノ ウチワ ガッコーノ ソバデス。

構文

語彙 ウチ ユーピンキョク ガッコー ソバ

〔教具〕 掛圖等。

二 指導

(一) 要領

1 本課は前課と同じく位置側に関する教材で、既習の構文によつて、「うち」「ユーピンきょく」「がくかう」「そば」等の語彙を

修得させるのが主眼である。

2 本課は前課及び前々課と同じく、「隣」の位置に関する教材であるとともに、「わたくしの」うちは「いりびんきょく」

のとなりです。」によつて、次の課から第二十二課までの郵便に関する教材へのつなぎでもある。

(一) 問答

1 復習

○□さん、あなたの みぎの かたは

○○さんですか。

△はい、さうです。

○□さん、あなたの ひだりの かた

は ○○さんですか。

△いいえ、わたくしの ひだりは △△

さんです。

○△さんは あなたの となりに り

ますか。

△はい、○○さんは わたくしの とな

りに ります。

○△△さんも あなたの となりに り

ますか。

△はい、△△さんも わたくしの とな

りに ります。

2 提示

指導者は學習者の側に行つて、

○わたくしは □さんの そばに

ます。

○わたくしは ○○さんの そばに

ます。

○わたくしは □さんの そばに

ません。

學習者の側から離れて、

○わたくしは □さんの そばに

ますか。

△はい、(あなたは) □さんの そばに



ります。

黑板の側に行つて、

○わたくしは こくばんの そばに  
ますか。

△はい、(あなたは) こくばんの そばに  
ります。

掛圖によつて、

○これは □さんの いへです。

これは □さんの うちです。

○これは ○○さんの いへです。

これは ○○さんの うちです。

○これは □さんの うちですか、○

○さんの うちですか。

△□さんの うちです。

○これは どなたの うちですか、

△□さんの うちです。

○これは がくかうです。

○これは いうびんきょくです。

○これは がくかうですか、いうびんきょ  
くですか。

△がくかうです。

○これは なんですか。(學校の繪を指し  
ながら)

△がくかうです。

○これは なんですか。(郵便局を指しな  
がら)

△いうびんきょくです。

○あなたの うちはいうびんきょくの  
となりですか。

△いゝえ、さうではありません。

○あなたの うちは何の となりで  
すか。

△わたくしの ちは ○○の となり  
です。(または、わたくしの ちは ○

○の(まへ)です。

同様に、数名の學習者に尋ねる。

○□さんの ちは がくかうの そ  
ばですか。

△いゝえ、さうではありません。

○それでは、□さんの ちは なん  
の そばですか。

△わたくしの ちは ○○の そばで  
す。(または、わたくしの ちは ○○  
の(まへ)です。)

同様に、数名の學習者に尋ねる。

○黑板に

ワタクシノ ウチワ ユーピンキョク

ノ トナリデス

ワタナベサンノ ウチワ ガッコノ

ソバデス

と書き、先づ符號によつて、語調に注意し、

はつきりした發音で數回範讀し、次に學  
習者の一人々に讀ませる。

更に本の第二十頁を開かせ、繪畫と符號  
を見させて、前に準じて範讀後、一人々に  
讀ませる。

3 總括

○□さん、あなたの ひだりの かた  
は どなたですか。

△わたくしの ひだりは ○○さんです。

○□さん、あなたの みぎの かたは

○○さんですか。

△いゝえ、わたくしの みぎは △△さ  
んです。

○○さんは あなたの となりに  
ますか。

△はい、○○さんは わたくしの とな  
りに ります。



- △△さんも あなたの となりに いますか。
- △はい、△△さんも わたくしの となりに います。
- 遠く離れてゐる××さんを指して、
- ××さんも あなたの となりに いますか。
- △いえ、わたくしの となりに いません。
- あなたの うち は なんの そばですか。
- △わたくしの うち は ○○の そばです。(または、わたくしの うち は ○○の 「まへ」です。)
- 掛圖によつて、
- さんの うち は いうびんきょくの となりですか。

三 備 考

- △はい、(□さんの うち は) いうびんきょくの となりです。
- わたなべさんの うち は がくかうのそばですか。
- △はい、(わたなべさんの うち は) がくかうの そばです。
- △○その他。
- (一) ウチをウジに、ユーピンキョクをユーピンチョク、ユピンキョクに、ガッコイをガッコ、ガコーに誤り易いから注意を要する。
- (二) 第十八課から始る「みぎ」「ひだり」となり「そば」等の位置に関する教材は、一應本課で終つてゐるので、こゝで纏めて復

- 習することが肝要である。
- (三) 「となり」と「そば」の別は教へにくいから、必要によつては、その區別を簡単に母國語で説明してもよい。
- (四) 本課の繪畫は、前に赤いポストの立つてゐる家が郵便局で、その右隣が「わたくし」の家。二階建の大きい家が學校で、その左の畠の中に見えるのが渡邊さんの家である。



第二十一課 (第二十一頁)

一 教材

ハガキオ ジューマイ クダサイ。  
 イッセンノ キツテオ ゴマイ クダサイ。  
 構文 ○○オ ○○ クダサイ。  
 語彙 ハガキ ジューマイ クダサイ イッセン キツテ  
 [教具] 郵便はがき十枚、一錢・二錢・三錢・四錢の郵便切手各五枚、手紙・掛圖等。

二 指導

(一) 要領

1 本課は郵便に關する教材で「○○を○

○ください」といふ構文によつて「はがき」「じふまい」「ください」「いっせん」「きつて」等の語彙を修得させるのが主眼である。

2 本課に於ては「ありがたう」「にせん」「さんせん」「しせん」「ごせん」「ろくせん」「しちせん」「はっせん」「くせん」「じっせん」「いくら」等の語彙を補充することとした。

示しながら)

3 本課は、中の巻第一課以下第六課までのものの教へ方等に關聯して、新に一錢から十錢までの金錢の稱へ方を修得させることが肝要である。

△「いっせん」「ごせん」「ろくせん」「しちせん」「はっせん」「くせん」「じっせん」「いくら」となりはどなたのうちですか。

4 「○○をください」といふいひ方を修得させることが肝要である。

△「がくかう」です。

5 本課及び第二十課、第二十二課は、郵便に關する一聯の教材であるから、相互の連絡に注意することが必要である。

○これは、なんですか。(掛圖の繪を指し示しながら)

△「がくかう」は、いうびんきょくのとりですか。

△「いっせん」「ごせん」「ろくせん」「しちせん」「はっせん」「くせん」「じっせん」「いくら」といふいひ方を修得させることが肝要である。

△「がくかう」は、いうびんきょくのとりですか。

△「いっせん」「ごせん」「ろくせん」「しちせん」「はっせん」「くせん」「じっせん」「いくら」といふいひ方を修得させることが肝要である。

○わたなべさんのうちには、いうびんきょくのそばですか、がくかうのそばですか。

△「がくかう」は、いうびんきょくのとりですか。

△「がくかう」のそばです。

(二) 問答

1 復習

○これは、なんですか。(掛圖の繪を指し

○「さん、あなたのうちには、いうびんきょくのそばですか。



△はい、さうです。(またはいゝえ、さうではありません。)

○〇〇さん、あなたのうちはがくかうのそばですか。

△はい、さうです。(またはいゝえ、さうではありません。)

△〇その他。

2 提示

○これは はがきです。(郵便はがきを示しながら)

○これは きってです。(郵便切手を示しながら)

○これは はがきですか。(はがきを示しながら)

△はい、さうです。

○これは きってですか。(はがきを示しながら)

△いゝえ、さうではありません。

○これは なんですか。(同上)

△はがきです。

○これは きってですか。(切手を示しながら)

△はい、さうです。

○これは はがきですか。(切手を示しながら)

△いゝえ、さうではありません。

○これは なんですか。(同上)

△きってです。

○これは はがきですか、きってですか。(葉書を示しながら自問)

はがきです。(自答)

○こゝに はがきが たくさん あります。かぞへてみませう。

いちまい にまい さんまい よまい

ごまい ろくまい しちまい はちまい

い くまい じふまい、じふまい あ

ります。

○はがきが いくまい ありますか、かぞへてごらん下さい。(はがきを七枚示して)

△いちまい にまい さんまい よまい

ごまい ろくまい しちまい、しちまい

い あります。

△〇その他。

學習者の一人にはがきと切手を渡し、

○はがきを ください。(手を差し出し、學習者の手からはがきを受取る。)

この際ありがたう。といふ。

○きってを ください。(手を差し出し、學習者の手から切手を受取る。)

他の學習者にはがきと切手を三枚づつ

渡して、

○はがきを いちまい ください。(はがきを一枚受取る。)

○ありがたう。

○きってを にまい ください。(切手を二枚受取る。)

○ありがたう。

○はがきを にまいと きってを いちまい ください。

○ありがたう。(受取る。)

同様にして、種々の組合せで〇〇をください。の練習をする。

○これは いっせんです。(一錢銅貨またはこれに代るべきものを示して)

○これも いっせんです。(もう一つ一錢銅貨またはこれに代るべきものを示して)



- これも いっせんです。(同上)
- みんなで さんせんです。
- 「さあ、かぞへてみませう。」といって、
- いっせん にせん さんせん しせん
- ごせん ろくせん しちせん はっせ
- ん くせん じっせん。
- 「さあ、いっしょに。」といって、
- △○いっせん にせん さんせん しせん
- ごせん ろくせん しちせん はっせ
- ん くせん じっせん。(反復數回)
- 次に一錢二錢三錢四錢等の切手を示し、
- これは いっせんの きつてです。(二
- 錢切手を示して)
- これは にせんの きつてです。(二錢
- 切手を示して)
- これは さんせんの きつてです。(三
- 錢切手を示して)

- これは しせんの きつてです。(四錢
- 切手を示して)
- これは いっせんの きつてですか。
- △はい、さうです。
- これは にせんの きつてですか。
- △いえ、さうではありません。
- これは いくらの きつてですか。
- △いっせんの きつてです。
- 等の要領で種々の練習をし、前と同じく
- 各種の切手を學習者の一人に渡して、
- いっせんの きつてを ください。(受取る)
- ありがたう。
- にせんの きつてを ください。(同上)
- ありがたう。
- △○その他。
- いっせんの きつてを いちまい く
- ださい。(同上)

- ありがたう。
- さんせんの きつてを にまい くだ
- さい。(同上)
- ありがたう。
- 教卓上にはがき切手等をおき、學習者の
- 一人を呼出して、
- はがきを さんまい ください。(受取る)
- ありがたう。
- にせんの きつてを さんまい くだ
- さい。(受取る)
- ありがたう。
- △○その他。
- 次に他の學習者を呼出し、前の學習者に、
- 「こんどは あなたが せんせいです。
- このかたから おもらひなさい。」といつ
- て、
- △はがきを ください。

- 受取る時に「ありがたう。」といはせる。(發
- 音し得ない時には教師が助けて)
- △いっせんの きつてを いちまい く
- ださい。(受取る)
- △ありがたう。
- △○その他。
- 黒板に
- ハガキオ ジューマイ クダサイ
- イッセンノ キツテオ ゴマイ クダ
- サイ
- と書き、先づ符號によつて、語調に注意し、
- はつきりした發音で數回範讀し、次に學
- 習者の一人々々に讀ませる。
- 更に本の第二十一頁を開かせ、繪畫と符
- 號を見させて、前に準じて範讀後、一人一
- 人に讀ませる。
- 3 總括



○それは なんですか。(少し離れてはがきを指し)

△はがきです。

○いくまい ありますか、かぞへてもらなさい。

△いち に さん し ごと ろく しち

はち く じふ、じふまい あります。

(一齊に、また一人々々に)

○はがきを じふまい ください。(二人の學習者から受取る。)

○ありがたう。

○それは なんですか。(二錢の切手を示して)

△いっせんの きってです。

○いくまい ありますか。

△ごまい あります。

○いっせんの きってを にまい くだ

さい。(受取る。)

○ありがたう。

○にせんの きってを ごまい くださ

い。(受取る)

○ありがたう。

△その他。

### 三 備 考

(一) ハガキをハガチ・ハガケに、またイッセンをイセンに、キツテをキテに誤り易いから、正しい音をしばしば聴馴れさせる等特に注意して教へることが肝要である。

(二) 「しせん」を「よんせん」「しちせん」を「なせん」「くせん」を「きうせん」といふいひ方もある。

## 第二十二課 (第二十二頁)

### 一 教 材

ソノ テガミワ ドナタニ ダスノデスカ。

コレワ シャンハイノ トモダチニ ダスノデス。

構文 ○○ワ ○○ニ ○○ノデス。

語彙 テガミ ダス シャンハイ トモダチ

符號 シャ

〔教具〕 郵便はがき・手紙・掛圖等。

### 二 指 導

#### (一) 要 領

1 本課は、前課と同じく郵便に関する教材で、「○○は○○に○○のです」といふ

構文によつて「てがみ」「だす」「シャンハイ」とも「だち」等の語彙を修得させるのが主眼である。

2 本課に於ては、「さうして」「ベキン」「もう」



「しりません」(しってゐます)等の語彙を補充することとした。

3 「だすのです」の「は」動詞を名詞化する助詞で、こゝでは「出す手紙です」の意味である。

4 「シャンハイのともだちの如く」○○に於ける「の」意の「の」を授けるには、学習者の知つてゐる地名をとり「シャンハイのガクカウ」「トウキョウ」のうち等の例を示して、理解を助けしめるがよい。

(二) 問 答

1 復習

○これは なんですか。(郵便はがきを示しながら)

△はがきです。

○これは なんですか。(郵便切手を示し

ながら)

△きつてです。

○いくら の きつてですか。

△いっせんの きつてです。

○はがきを いちまい ください。(學習者に渡しておいて)

○ありがたう。(受取る。)

○いっせんの きつてを ごまい ください。

○ありがたう。

△その他。

學習者二人を呼出し、一人に發問をさせ、他に答へさせて練習する。

2 提示

○これは てがみです。(手紙を示しながら)

わたくしの ともだちが かきました。

○「ともだち」間をおいて) わかりますか。

△わかりません。

○□さんと ○○さんは ともだちです。

××さんも ともだちです。

○みなさんは みんな ともだちです。

○みなさんは せいとです。

○さうして、みなさんは みんな ともだちです。

△その他。

○この てがみは わたくしの ともだちが かきました。(手紙を掲げ示しながら)

○わかりますか。

△はい、わかります。

△よろしい。

○わたくしの ともだちは シャンハイ

に ゐます。

○この てがみは シャンハイの ともだちから きました。

○シャンハイの ともだちは この てがみ を かきました。

△その他。

○これは なんですか。

△てがみです。

○どなたが かきましたか。

△せんせいの ともだちが かきました。

○せんせいの ともだちは どこに ゐますか。

△シャンハイに ゐます。

○この てがみは シャンハイの ともだちから きましたか。

△はい、さうです。

○この てがみは シャンハイの とも



だちから きましたか、ペキンのと  
もだちから きましたか。

△シャンハイの ともだちから きまし  
た。

△○その他。

○こゝに もう<sup>モ</sup>ひとつ てがみがあ  
ります。(他の自分の書いた手紙を示し  
て)

○この てがみは わたくしが かきま  
した。

○ れは どなたに だすのでせうか。<sup>ショウ</sup>

○あなたは しりません。わたくしは  
しつてゐます。

○わたくしの ともだちに だすです。

○わたくしの ともだちは シャンハイ  
に ゐます。

○これは シャンハイの ともだちに

だすのです。

△○その他。

○この てがみは わたくしが かきま  
したか。

△はい、あなたが かきました。

○この てがみは ともだちに だすの  
ですか。

△はい、さうです。

○この てがみは あなたに だすので  
すか。

△いえ、さうではありませぬ。

○どなたに だすのですか。

△シャンハイの ともだちに だすので  
す。

△○その他。

○黒板に

ソノ テガミワ ドナタニ ダスノデ

スカ

コレワ シャンハイノ トモダチニ  
ダスノデス

と書き、先づ符號によつて、語調に注意し、  
はつきりした發音で數回範讀し、次に學  
習者の一人々々に讀ませる。

更に本の第二十二頁を開かせ、繪畫と符  
號を見させて、前に準じて範讀後、一人一  
人に讀ませる。

3 總括

○これは なんですか。(手紙を示して)

△てがみです。

○どなたが かきましたか。

△あなたが かきました。

○この てがみは ペキンの ともだち  
に だすのですか。

○いえ、さうではありませぬ。

○どなたに だすのですか。

△シャンハイの ともだちに だすので  
す。

△○その他。

三 備考

(一) テガミをデガミに、トモダチをドモダ  
チに誤り易いから注意を要する。

(二) シャンハイ・ペキン等の發音は日本語  
として日本風に發音させる。

(三) 「ともだち」の敬稱は次の課に出て来る  
から「おともだち」としてもよい。しかし  
本課は相當複雑であるから、次の課まで  
待つ方がよいであらう。

(四) 第二十課から始る郵便に關する教材  
は、一應本課で終つてゐるので、こゝで纏  
めて總復習する必要がある。



第二十三課 (第二十三頁)

一 教材

アノ セーノ タカイ カタワ アナタノ オトモダチデスカ。

イーエ、ワタクシノ アニデス。

構文 アノ ○○ノ ○○○○ワ ○○○ノ ○○ デスカ。

語彙 セー(セーノ) タカイ オトモダチ アニ

[教具] 掛圖等。

二 指導

(一) 要領

1 本課は「あの○○の○○□□は○○の

○○ですか」といふ複文の構文を授けるとともに、「せい」「せいの」「たかい」「おともだち」「あに」等の語彙を修得させるのが

主眼である。

2 本課に於ては、「おとうさん」「おかあさん」「にいさん」等の語彙を補充することとした。

6 「おともだち」の「お」は丁寧な意を示すに用ひる接頭語である。この場合、必要に応じては、學習者の母語で「お」の意味を簡単に説明してもよい。

3 本課に於ては、「せいのたかい」の如く主格を示す「が」の意の「の」を修得させることが必要である。

(二) 問答

1 復習

○これは「なんですか。(友人からの手紙を示して)

△てがみです。

○どなたに きましたか。

△あなたに きました。

○どなたから きましたか。

△シャンハイの ともだちから きました。

△その他、

○こゝに もう ひとつ てがみがあ

4 「あの せいの たかい かたは あなたの おともだちですか。の如き複文は、先づ□□さんは せいの たかい かたです。を修得させてから、指導に入るとよい。

5 本課は、前課を受けて次課に続けるつなぎの教材である。さうして本課以下第二十七課までは、兄弟姉妹、父母等の家族に關する一聯の教材であるから、相互の連絡に注意することが必要である。



ります。

これは わたくしが かきました。

これは シャンハイの ともだちに  
だすのです。

○これは ペキンの ともだちに だす  
のですか。

△いえ、さうではありません。

○これは どなたに だすのですか。

△シャンハイの ともだちに だすので  
す。

△○その他。

2 提示

○□さんは せい<sup>せ</sup>の たかい かたで  
す。(学習者の中の丈の高い者を指し、ま  
たは掛圖によつて)

○○○さんは せい<sup>せ</sup>の ひくい かたで  
す。(身長<sup>身長</sup>の低い者を指して)

○これは せい<sup>せ</sup>の たかい いぬです。

(掛圖または略畫により)

○これは せい<sup>せ</sup>の ひくい いぬです。

△○その他。

○□さんは せい<sup>せ</sup>の たかい かたで  
すか。

△はい、さうです。

○○○さんは せい<sup>せ</sup>の たかい かたで  
すか。

△いえ、さうではありません。

○□さんは せい<sup>せ</sup>の たかい かたで  
すか、せい<sup>せ</sup>の ひくい かたですか。

○○○さんは せい<sup>せ</sup>の ひくい かたで  
すか。

△はい、さうです。

○□さんは せい<sup>せ</sup>の ひくい かたで

すか。

△いえ、さうではありません。

○○○さんは せい<sup>せ</sup>の たかい かたで  
すか、せい<sup>せ</sup>の ひくい かたですか。

△せい<sup>せ</sup>の ひくい かたです。

△○その他。

○□さんは ○○さんの おともだち  
です。(この場合必要があるなら、学習者  
の母語で「お」の意味を簡単に説明して  
もよい。)

○○○さんは □さんの おともだち  
です。

○□さんは あなたの おともだちで  
すか。(他の學習者に)

△はい、さうです。

○○○せんせい<sup>せんせい</sup>は あなたの おともだ  
ちですか。(他の教師の名を用ひて)

△いえ、さうではありません。

○□さんは あなたの なんですか。

△わたくしの おともだちです。

△○その他。

一 家族の掛圖を示し、または略畫また  
は家系圖を板書して、

○これは ○○さんです。(普通の名前を  
用ひ、繪を指しながら)

○これは ○○さんの おとうさんです。

これは ○○さんの おかあさんです。

これは ○○さんの いいさんです。

○これは ○○さんの おとうさんです

か。(○○の父の繪を指して)

△はい、さうです。

○これは ○○さんの おかあさんです  
か。

△いえ、さうではありません。



○これは どなたですか。  
 △○○さんの おとうさんです。  
 ○これは ○○さんの にいさんですか。  
 (○○の兄の繪を指して)  
 △はい、さうです。  
 ○これは ○○さんの おとうさんですか。  
 △はい、さうではありません。  
 ○これは どなたですか。  
 △○○さんの にいさんです。  
 △その他。  
 ○あなたは にいさんが ありますか。  
 △はい、あります。(または、いえ、ありません。)  
 ○これは ○○さんの にいさんですか、  
 おともだちですか。  
 △○○さんの にいさんです。

○○○さんの にいさんは せいのかい  
 かたです。  
 ○○○さんは せいの ひくい かた  
 です。  
 ○○○さんは せいの ひくい かた  
 ですか。  
 △はい、さうです。  
 ○○○さんは せいの たかい かた  
 ですか。  
 △はい、さうではありません。  
 ○○○さんは どんな かたですか。  
 △せいの ひくい かたです。  
 ○○○さんの にいさんは せいの た  
 かい かたですか。  
 △はい、さうです。  
 ○○○さんの にいさんは せいの ひ  
 くい かたですか。

△いえ、さうではありません。  
 ○○○さんの にいさんは どんな か  
 たですか。  
 △せいの たかい かたです。  
 ○この せいの たかい かたは どな  
 たですか。(掛圖を示して)  
 △○○さんの にいさんです。  
 △その他。  
 ○黒板に  
 アノ セーノ タカイ カタワ アナ  
 タノ オトモダチデスカ  
 イーエ ワタクシノ アニデス  
 と書き、先づ板書の符號によつて、語調に  
 注意し、はつきりした發音で數回範讀し、  
 次に學習者の一人々々に讀ませる。  
 更に本の二十三頁を開かせ、繪畫と符號  
 を見させて、前に準じて範讀後、一人々々

に讀ませる。  
 3 總括  
 ○□□さんは せいの たかい かた  
 ですか。  
 △はい、さうです。  
 ○□□さんは せいの ひくい かた  
 ですか。  
 △いえ、さうではありません。  
 ○□□さんは どんな かたですか。  
 △せいの たかい かたです。  
 ○これは どなたですか。  
 △○○さんの にいさんです。  
 ○○○さんの にいさんは せいの た  
 かい かたですか、せいの ひくい  
 かたですか。  
 △せいの たかい かたです。  
 ○この せいの ひくい かたは どな



たですか。

△○○さんです。

○この せいの たかい かたは どなたですか。

△わたくしの あにです。

○□さんは あなたの おともだちですか。

△はい、さうです。

○○○さんは あなたの おともだちですか。

△いゝえ、さうではありません。

○この せいの たかい かたは あなたのおともだちですか。

△いゝえ、さうではありません。

○この せいの たかい かたは どなたですか。

△わたくしの あにです。

△○その他。

三 備 考

(一) カタをカダに、ワタクシをワダグシに誤り易いから注意を要する。

(二) 名詞を修飾するときは、「あのせいのたかいかた」「あのせいのひくいかた」「の」の如く、主格を表はすのに「の」とり、ひ切りに用ひるときには、「あのかたはせいがかたかい」「あのかたはせいがひくい」の如く「がをとる」。

(三) 「あのせいのたかいかたはを、あのせいのたかいのかたの如く、形容詞の連體形に」を添加し易いから注意を要する。

第二十四課 (第二十四頁)

一 教 材

ワタクシニワ アネガ ヒトリ イモートガ ヒトリ  
アリマス。

ワタクシタチワ キョーダイデス。

構文 ○○ニワ ○○ガ ○○ ○○ガ ○○ アリマス。  
語彙 アネ ヒトリ イモート ワタクシタチ キョーダイ

〔教具〕 掛圖等。

二 指 導

(一) 要 領

1 本課は、兄弟姉妹に関する教材で、「○○には○○が○○、□が○○○あります。」

といふ構文を授けるとともに、「あね」「ひとり」「いもうと」「わたくしたち」「きょうだい」等の語彙を修得させるのが主眼である。



2 本課に於ては、「ねえさん」このかたち「あなた」が「ち」「は」等の語彙を補充することとした。

3 「わたくしには あねが ひとり います」とが ひとり あります。を授けるには、先づ「わたくしには あねが ひとり あります」と「わたくしには います」とが ひとり あります。とを修得させてから授けるとよい。

(二) 問 答

1 復習

○これは どなたですか。(掛圖または略畫によつて)

△○○さんです。

○これは どなたですか。

△○○さんの にいさんです。

○□□さんは あなたの おともだちですか。

△はい、さうです。

○○○さんは あなたの おともだちですか。

△はい、え、さうではありません。

○□□さんは どなたの おともだちですか。

△わたくしのおともだちです。

○□□さんは せいの たかい かたですか。

△はい、さうです。

○○○さんは せいの たかい かたですか。

△はい、え、さうではありません。

○□□さんは せいの たかい かたですか、せいの ひくい かたですか。

△せいの たかい かたです。

○この せいの たかい かたは どなたですか。(□□さんを指して)

△□□さんです。

○この せいの たかい かたは どなたですか。(掛圖の繪を指して)

△○○さんの にいさんです。

△その他。

2 提示

○これは ○○○さんです。(掛圖または略畫によつて)

これは ○○○さんの おとうさんです。

これは ○○○さんの おかあさんです。

○これは どなたですか。

△○○さんの にいさんです。

○これは ○○○さんの ねえさんです。これは ○○○さんの いもうとさんです。

○○○さんには にいさんが あります。いくにん ありますか。

△ひとり あります。

○わたくしには あねが ひとり あります。

わたくしには いますとも ひとり あります。

○あなたには ねえさんが ありますか。

△はい、あります。

○いくにん ありますか。(姉のある場合のみ)

△ひとり(またはふたり等) あります。

○あなたには ねえさんが ありますか。

△はい、あります。(または、い、え、あり



- あなたには いろいろとさんが ありますか。
- △はい、あります。(または、いゝえ、ありません。)
- いくにん ありますか。(妹のある場合のみ)
- △○○にん あります。
- さんには にいさんが ひとり あります。
- さんには ねえさんも ひとり あります。
- さんには いろいろとさんも ありますか。
- △はい、あります。
- さんと ○さんの にいさんと は きゃうだいです。

- さんと ○さんの ねえさんと は きゃうだいです。
- さんと ○さんの いろいろとさんと も きゃうだいです。
- あねと あにと いろいろとは きゃうだいです。
- このかたたちは きゃうだいです。
- わたくしには あねが あります。
- わたくしには いろいろとも あります。
- わたくしと わたくしの あねとは きゃうだいです。
- わたくしと わたくしの いろいろとは きゃうだいです。
- わたくしたちは きゃうだいです。
- あなたと あなたの いろいろとさんと は きゃうだいです。
- あなたがたは きゃうだいです。

- あなたは きゃうだいが ありますか。
- △はい、あります。(または、いゝえ、ありません。)
- あなたは ねえさんが ありますか。
- △はい、あります。(または、いゝえ、ありません。)
- いくにん ありますか。
- △○○にん あります。
- あなたは いろいろとさんが ありますか。
- △はい、あります。(または、いゝえ、ありません。)
- その他。
- 黒板に
- ワタクシニワ アネガ ヒトリ イモ
- イトガ ヒトリ アリマス
- ワタクシタチワ キョーダイデス

- わたくしたちは きゃうだいですか。
- △はい、さうです。
- わたくしの ちゝと はゝとは きゃうだいですか。
- △いゝえ、さうではありません。
- わたくしと あねとは なんですか。
- △きゃうだいです。
- さんには いろいろとさんが ひとり

と書き、符號によつて、語調に注意し、はつきりした發音で數回範讀し、次に學習者の一人々々に讀ませる。  
更に本の第二十四頁を開かせ、繪畫と符號を見させて、前に準じて範讀後、一人一人に讀ませる。

3 總括

- わたくしには あねが ひとり あります。
- わたくしたちは きゃうだいですか。
- △はい、さうです。
- わたくしの ちゝと はゝとは きゃうだいですか。
- △いゝえ、さうではありません。
- わたくしと あねとは なんですか。
- △きゃうだいです。
- さんには いろいろとさんが ひとり



りあります。(掛圖の繪を指して)

○このかたたちは きやうだいですか。

△はい、さうです。

○〇〇さんと わたくし(と)は きやうだ

いですか。

△いゝえ、さうではありません。

○〇〇さんと いもうとさん(と)は なん

ですか。

△きやうだいです。

○あなたは いもうとさんが あります

か。

△はい、あります。(または、いゝえ、あり

ません。)

○いくにん ありますか。(妹のある學習

者に)

△〇〇にん あります。

○あなたと いもうとさん(と)は なん

### 三 備 考

すか。

△わたくしたちは きやうだいです。

○わたくしには あねが 〇〇にんと

いもうとが 〇〇にん あります。

○わたくしには あねが 〇〇にん

いもうとが 〇〇にん あります。

わたくしたちは きやうだいです。

イモトをイモトイモトに、キョーダイをキョーダイ、チョーダイに、ワタクシタチをワダグシダチに、コノカタタチをコノガダダチに、アナタガタをアナダガダに誤り易いから注意を要する。

## 第二十五課 (第二十五頁)

### 一 教 材

アナタト オトートサンワ トシガ イクツ チガイマスカ。

ミツツ チガイマス。

構文 ○〇ト ○〇ワ ○〇ガ ○〇 チガイマスカ。

語彙 オトート トシ チガイ(マス)

[教具] 掛圖等。

### 二 指 導

#### (一) 要 領

1 本課は、兄弟の年齢問答に関する教材

で、〇〇と〇〇は〇〇が〇〇ちがひますか。といふ構文を授けるとともに、「おとう」と「とし」(ちがひ(ます)等の語彙を修得さ



せるのが主眼である。

2 本課に於ては「ちがふ」に關聯して「おなじ」の語を補充することとした。

3 「あなたと おとうとさんは としがいくつ ちがひますか」といふ構文は「あなたと おとうとさんの」としては「いくつ ちがひますか」といふひ方の中、特に「あなたと おとうとさん」を提示したいひ方である。

4 本課及び次の課は、兄弟姉妹の年齢問答に關する一聯の教材であるから、相互の連絡に注意することが必要である。

(二) 問 答

1 復習

○これは どなたですか。(掛圖の繪を指して)

△○○さんの ねえさんです。

○これは どなたですか。

△○○さんの いもうとさんです。

○○○さんたちは きゃうだいですか。

△はい、さうです。

○わたくしたちは きゃうだいですか。

(生徒全體と自分とを指して)

△はい、さうです。

○○○さんたちは なんですか。

△きょうだいです。

○あなたは ねえさんが ありますか。

△はい、あります。(または「いえ、ありません。」)

△その他。

○あなたがたは、せいとですか。

△はい、さうです。

○あなたがたは せんせいですか。

者に)

△○○にん あります。

△その他。

○○○さんは じふにです。

○○○さんの いもうとさんは とをで

す。

○○○さんの おとうとさんは こゝの

つです。

○あなたの としは じふにですか。

△はい、さうです。

○あなたの としは じふいちですか。

△はい、え、さうではありません。

○あなたの としは いくつですか。

△わたくしの としは じふにです。

○○○さんは いくつですか。

△じふにです。

○○○さんの いもうとさんは いくつ

△はい、え、さうではありません。

○あなたがたは なんですか。

△わたくしたちは せいとです。

△その他。

2 提示

○これは ○○さんの おとうとさんで

す。(掛圖の繪を指して)

○これは ○○さんの いもうとさんで

す。

○これは ○○さんの おとうとさんで

すか、いもうとさんですか。

△おとうとさんです。

○あなたは おとうとさんが あります

か。

△はい、あります。(または「いえ、あり

ません。」)

○いくにん ありますか。(弟のある學習



ですか。

△とをです。

○○○さんと いもうとさんは としが  
ふたつ ちがひます。

○あなたは ○○さんは としが おな  
じです。

○○○さんの おとうとさんは いくつ  
ですか。

△こゝのつです。

○○○さんと おとうとさんは としが  
みつつ ちがひます。

○○○さんたちは としが みつつ ち  
がひますか。

△はい、さうです。

○○○さんたちは としが いくつ ち  
がひますか。

△みつつ ちがひます。

○あなたは おとうとさんが あります  
か。

△はい、あります。(または、いえ、あり  
ません。)

○あなたと おとうとさんは としが  
いくつ ちがひますか。

△○○○ ちがひます。

△その他。

○黒板に  
アナタト オトトサンワ トシガ  
イクツ チガイマスカ  
ミッツ チガイマス

と書き、先づ符號によつて、語調に注意し、  
はつきりした發音で數回範讀し、次に學  
習者の一人々々に讀ませる。

更に本の第二十五頁を開かせ、繪畫と符  
號を見させて、前に準じて範讀後、一人一

人に讀ませる。

3 總括

○これは どなたですか。(掛圖の繪を指  
して)

△○○○さんの おとうとさんです。

○○○さんは いくつですか。

△じふにです。

○あなたは いくつですか。

△○○○です。

○○○さんの おとうとさんは いくつ  
ですか。

△こゝのつです。

○○○さんと おとうとさんは としが  
いくつ ちがひますか。

△みつつ ちがひます。

○あなたは おとうとさんが あります  
か。

三 備 考

オトトサンをオトトサン・オドドサン  
に、トンをトジ・ドジに、イクツをイグズに誤  
り易いから注意を要する。

△はい、あります。(または、いえ、あり  
ません。)

○あなたの おとうとさんは いくつで  
すか。

△○○○です。

○あなたと おとうとさんは としが  
いくつ ちがひますか。

△○○○ ちがひます。

△その他。



第二十六課 (第二十六頁)

一 教材

アニワ ワタクシヨリ トシガ フタツ ウエデス。  
 オトトワ ワタクシヨリ フタツ シタデス。  
 構文 ○○ワ ○○ヨリ ○○ガ ○○ ウエ(シタ)デス。  
 語彙・ヨリ

〔教具〕掛圖等。

二 指導

(一) 要領

1 本課は、前課と同じく、兄弟の年齢問答に関する教材で、○○は○○より○○が○○うへ(した)です。といふ構文を授ける

とともに、「わたくし」よりの語を修得させるのが主眼である。  
 2 「あには わたくしより としがふたつうへです。」といふ構文は、「あに」としては わたくし」のより ふたつうへ

です。といふいひ方の中、特に「あに」を提示したいひ方である。

3 「あには わたくし」よりの「より」は比較する意を表はす助詞である。

(二) 問答

1 復習

○あなたは いもうとさんが ありますか。  
 △はい、あります。(または「いいえ、ありません。」)

○あなたの いもうとさんは いくつですか。(妹のある學習者に)

△○○です。  
 ○あなたと いもうとさんは としがいくつ ちがひますか。

△○○ ちがひます。

○あなたは おとうとさんが ありますか。  
 △はい、あります。(または「いいえ、ありません。」)

○あなたの おとうとさんは いくつですか。(弟のある學習者に)

△○○です。  
 ○あなたと おとうとさんは としがいくつ ちがひますか。

△○○ その他。

2 提示  
 ○この 魚を ごらん下さい。(掛圖を指しながら)

○これは ○○さんの おとうとさんです。

○これは ○○さんの にいさんです。



○△△さんの にいさんは <sup>ジッ</sup>じふしです。  
 ○△△さんは いくつですか。  
 △じふにです。  
 ○○○さんと にいさんは としが い  
 くつ ちがひますか。  
 △ふたつ ちがひます。  
 ○○○さんと おとうとさんは としが  
 いくつ ちがひますか。  
 △みつつ ちがひます。  
 ○○○さんは おとうとさんより とし  
 が ふたつ うへです。  
 △△さんは いもうとさんより とし  
 が みつつ うへです。  
 おとうとさんは ○○○さんより とし  
 が ふたつ したです。  
 いもうとさんは ○○○さんより とし  
 が みつつ したです。

○○○さんは おとうとさんより とし  
 が ふたつ うへですか。  
 △はい、さうです。  
 ○○○さんは おとうとさんより とし  
 が みつつ うへですか。  
 △いいえ、さうではありません。  
 ○○○さんは おとうとさんより とし  
 が いくつ うへですか。  
 △ふたつ うへです。  
 ○あなたは わたくしより としが う  
 へですか、したですか。  
 △わたくしは あなたより としが し  
 たです。  
 ○あなたは <sup>キョウ</sup>きょうだいが ありますか。  
 △はい、あります。  
 ○あなたの <sup>キョウ</sup>きょうだいは あなたより  
 としが うへですか、したですか。

△うへです。(または、したです。)  
 ○それでは、あなたの なんですか。  
 △わたくしの あに (または、あね)おとう  
 と「いもうと」です。  
 ○あなたと おとうとさんは としが  
 いくつ ちがひますか。(弟のある學習  
 者に)  
 △○○ ちがひます。  
 ○あなたは いくつですか。  
 △わたくしは ○○です。  
 ○あなたの おとうとさんは いくつで  
 ですか。  
 △おとうとは ○○です。  
 ○おとうとさんは あなたより いくつ  
 したですか。  
 △おとうとは わたくしより ○○し  
 たです。

△その他。  
 ○黒板に  
 アニワ ワタクシヨリ トシガ フタ  
 ツ ウエデス  
 オートワ ワタクシヨリ フタツ  
 シタデス  
 と書く。右の符號を讀ませる要領は前  
 課の如くする。  
 3 總括  
 ○あなたは にいさんが ありますか。  
 △はい、あります。(または、いいえ、あり  
 ません。)  
 ○あなたは いくつですか。  
 △わたくしは ○○です。  
 ○あなたの にいさんは あなたより  
 としが いくつ うへですか。  
 △あには わたくしより としが ○○